

1 RMR オリジナルボイスドラマ
 2 「超鬼兵ガルヴァイド エデン・ダイバー」脚本・菅谷陽星 ver. 20111002 収録用決定稿
 3 ○キヤツチコピー 3パターん
 4 N 「超鬼兵《ちようきへい》ガルヴァイド エデン・ダイバー。その伝承《でんし
 5 よう》を受け継ぐのは誰か」
 6 N 「超鬼兵ガルヴァイド エデン・ダイバー。いま、伝説《でんせつ》が真実《し
 7 んじつ》になる」
 8 ミナミ 「いくよ！ ロボットやん！」
 9 ○タイトルコール
 10 ミナミ 「ガルヴァイド エデン・ダイバー！」
 11 キタヤマ 「ガルヴァイド エデン・ダイバー！」
 12 ニシジマ 「ガルヴァイド エデン・ダイバー！」
 13 ジュリー 「ガルヴァイド エデン・ダイバー！」
 14 コヅカ 「ガルヴァイド エデン・ダイバー！」
 15 ロイス 「ガルヴァイド エデン・ダイバー！」
 16 先・マナカ 「ガルヴァイド エデン・ダイバー！」
 17 全員 「ガルヴァイド エデン・ダイバー！」
 18 全員 「ガルヴァイド エデン・ダイバー！」
 19 ○メモ・都合によりマナカを先に収録します
 20 単独収録シーン1、3、37' 40' 45' 67' 71' 72' 73' 74' 75' 76' 78' 79' 80' 82'
 21 83' 84' 86' 88'
 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56

○CM用
 ソラ 「ほら、ミナミもみなさいよ！」
 ミナミ 「お姉ちゃん、夕べから寝ないで観てたの？」
 ソラ 「それが未来ある女子高生の態度か？」これを観ずして何を観る！
 先・マナカ 「世界中を襲った大惨事から一三年。未だ復興の渦中ではありますが、日本は再び大きくはばたこうとしています。太陽系の外へ旅立つことが決定して十年。我が国の科学技術の粹を結集した調査船・不死鳥が、今、ここ種子島《たねがしま》宇宙センターから発射されるまで、あと一時間半」
 N 「アドレマインズの混沌《こんとん》が、人類の歴史に爪痕《つめあと》を残した惨事から、すでに十数年が経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯《おび》えなければならなかつたのだ。果たして救世主《きゆうせいしゅ》はどこにいるのか。それは誰にも答えることができなかつた……」
 ミナミ 「え？ わたしが、ロボットのパイロット！ そんなの絶対に無理です！」
 キタヤマ 「大丈夫、オレがついてる」
 ミナミ 「キタヤマさんなんか嫌いですツ」
 ニシジマ 「たしかに心配ではある。男女関係的な意味で（笑）」
 ジュリー 「ニシジマ博士の言うとおりです」
 キタヤマ 「ジュリエット本部長までそんなこと」
 コヅカ 「いいか。これは国家のいや世界の危機なのだ。もつと真剣にやるんか」
 ミナミ 「わたし。コヅカ大臣って、苦手です」
 ロイス 「わたしもだ」
 ロイス以外 「あたは全員から嫌われてますけどね！」
 N 「RMR《あーる・えむ・あーる》がお送りするオリジナルSFロボットアクション・ボイスドラマ『超鬼兵《ちようきへい》ガルヴァイド エデンダイバー』。第1話「巨人再来《きよじんさいらい》」にご期待ください」
 ○アイキヤツチ
 glitter | — = 12 秒
 ○シーン1 アバントタイトル

57 東京都・台東区鶯谷《うぐいすだに》。ホテルの一室、早朝5時30分
58 種子島宇宙センターのJAXA広報担当者がマナカのインタビューに答えている様子が中継
59 されている

60 JAXAの人（）「これが、今回搭載された姿勢制御システムの概略です。つくばをはじめ
61 め多くの技術者の結晶とでもいいましょうか」

62 先・マナカ「ありがとうございました」

63 マナカ、カメラに向き直り、

64 マナカ、カメラに向き直り、

65 先・マナカ「世界中を襲つた大惨事から一三年。未だ復興の渦中ではあります。日本は
66 再び大きくなればたこうとしています。太陽系の外へ旅立つことが決定して十年。我が
67 国の科学技術の粋を結集した調査船・不死鳥が、今、ここ種子島《たねがしま》宇宙
68 センターから発射されるまで、あと一時間半。ここで一旦スタジオにお返しします」

69 70 71 真っ白なシーツが敷かれたベッドの頭に備え付けのラジオから聴こえる放送
72 キタヤマの意識は半分はラジオ。半分は目の前の美人女子大生のほろ酔いの瞳にある
73 74

75 (別) 女子大生「ラジオ消して…」

76 キタヤマ「あ、ああ」

77 (別) 女子大生「いいよ」

78 キタヤマ「今日あつたばかりなのに？」

79 (別) 女子大生「それ以上、言わせないで」

80 キタヤマ「じや、遠慮なく…」

81 82 キタヤマの携帯の呼び出しアラームが鳴る。分室からの緊急コールサイン

83 キタヤマ「な！ マジかよ…」

84 (別) 女子大生「出ないで」

85 (別) 女子大生「出ないで」

86 キタヤマ「(汗)めん。用事できた」

87 キタヤマ、急いでベルトを締めてズボンをはく

88 憤慨する女子大生

89 (別) 女子大生「ちよつとお！」

90 キタヤマ「宿代はこれで払えるから」

91 キタヤマはカードを女子大生に投げつける

92 (別) 女子大生「なによ、それ！」

93 ドアから廊下に走り出るキタヤマ、携帯を肩ではさみながら

94 キタヤマ「キタヤマです。すぐ向かいますんで」

95 キタヤマ「まつたくツ」

96 (別) 女子大生「カードだけ渡して置いてけぼり？ つて、名刺！ キヤツシユカードじ
97 やないじやん！ 何コレ？ こつかあんぜんほしよういいんかい、とくべつぶんしつ、
98 しゆにん？」

99 (別) 女子大生「なによ、それ！」

100 キタヤマ「キタヤマです。すぐ向かいますんで」

101 キタヤマ「まつたくツ」

102 (別) 女子大生「カードだけ渡して置いてけぼり？ つて、名刺！ キヤツシユカードじ
103 やないじやん！ 何コレ？ こつかあんぜんほしよういいんかい、とくべつぶんしつ、
104 しゆにん？」

105 (別) 女子大生「なによ、それ！」

106 ○シーン2 オープニング

107 N 「アドレマイズの混沌《こんとん》が、人類の歴史に爪痕《つめあと》を残した
108 慘事から、すでに十数年が経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯《おび》えなければならなかつたのだ。果たして救世主《きゅうせいしゅ》はどこにいるのか。それ
109 は誰にも答えることができなかつた…」

111

112

113 N アイキャッチ

114 ○シーン3 「Hピソード・ワン 巨人再来 《きよじん サーフィン》」

115 さいたま市。にぎわい出すよそおいの街並み。蟬が鳴くマンションが立ち並ぶ一角

116 その中にあら三階建てのちょっと古いアパート

117 ソラが興奮して叫んでいるのが外まで聴こえる

118 ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアアップなんて映しちゃっていいのか！」

119 ソラ、居間でテレビにかじりついている

120 先・マナカ 「ただいま朝六時をまわりました。打ち上げまであと三十分。天候はいい覧のと

121 ソラ 「ほら！ ミナミも観なさいよ！」

122 ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアアップなんて映しちゃっていいのか！」

123 ソラ、居間でテレビにかじりついている

124 ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアアップなんて映しちゃっていいのか！」

125 ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアアップなんて映しちゃっていいのか！」

126 ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアアップなんて映しちゃっていいのか！」

127 ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアアップなんて映しちゃっていいのか！」

128 ソラ 「ほら！ ミナミも観なさいよ！」

129 ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアアップなんて映しちゃっていいのか！」

130 ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアアップなんて映しちゃっていいのか！」

131 ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアアップなんて映しちゃっていいのか！」

132 ソラ 「タベから寝ないで観てたの？」

133 ソラ 「何いつてんのよ。我らの不死鳥が打ち上げだつてのに悠長 《ゆうちょう》 に寝

134 ていられるあんたの方がどうかしてるのでよ」

135 ソラ 「いつもは睡眠、睡眠 《どかいつてるくせに》

136 ソラ 「あたしの美貌は一晩くらい寝なくたつて、まつたく問題ないのよ」

137 ソラ 「今日は大事な模試 《もし》 だつて言つたでしょ。あたしにはそつちの方が全然

138 ソラ 「大事なの」

139 ソラ 「それが未来ある女子高生の台詞か？ あうなんて夢のない妹をもつたのだろう。

140 父さんと母さんになんて報告したらいいものか、姉は真剣に悩むのだった」

141 ソラ 「その演劇かぶれな感じ、やめて欲しいわ」

142 ソラ 「かぶれとは何よ。劇団マーシャラの看板女優をなめてもらつちや困るわね！」

143 ソラ 「自分で看板とかいうかね。しかも、元だし」

144 ソラ 「あらゴメンなさい。どこかのミナミさんみたいにナンの取り柄もない補欠の、

145 ソラ 「ただの眼鏡つ娘とは違うなんて、口が裂けても言えないわね」

146 ソラ 「部活のことには口出ししないで。わたしだつて一生懸命やつてるんだから」

147 ソラ 「こないだは晴れ着まで買ってあげたつてのに、一本も刺さらないんじや必要な

148 ソラ 「かつたわね」

149 ソラ 「いちいち人を傷つけるスキルには感服するわ」

150 ソラ 「あたしだつたら上手くなるまで寝るときも袴 《はかま》 はいて寝るわね」

151 ソラ 「弓道やつたことない人に、あの難しさはわかんないのよ」

152 先・マナカ 「ただいま入つた情報によりますと、不死鳥の発射カタパルト部分に異常が発

153 見されたとのこと。確認のため発射を順延 《じゅんえん》 するとの連絡が入りました」

154 ソラ 「おおお、なんたるチア！ がんばれジャクサ！」

155 ソラ 「とりあえず…パン焼くわ…」

156 ソラ 「かつたわね」

157 ○シーン4 立川基地・指令室 朝6時43分

158 壁一面のスクリーンに様々な情報が表示されている

159 リアルタイムで変化する各種データ

160 指令室は緊急事態でざわついている

161 スクリーンを観る観客席のように並んだオペレータ用コンソールデスク

162 オペC 「小笠原 《おがさわら》 ホール。半径二十キロ圏内に重力場 《じゅうりょくば》

163 オペD の異常を感知。急速に拡大中！」

164 オペE 「マルコクヨンサン。ダイバー到着」

165 オペF 「気象庁から解析の報告はまだこんのか！」

166 オペG 「あと十分待つて欲しいと言つてます」

167 オペH 「あと十分待つて欲しいと言つてます」

168 オペI 「あと十分待つて欲しいと言つてます」

- 169 自動ドアが開き、急いでいる風に入ってくるキタヤマ
 170 節電のため空調温度が高い指令室で怒鳴っているコヅカ
 171
 172 キタヤマ 「うわソ、毎度の蒸し暑セ」
 173
 174 コヅカ 「だからあれほど予算をこちらに回せと言つたのだ」
 175 キタヤマ 「すみません。なかなかタクシー、捉《つか》まらないで」
 176 ジュリー 「セカンドフェーズだというのに、何をしていたのですか？」
 177 コヅカ 「ジュリエット本部長の言うとおり。だいたいこの時間なら、鶯谷《うぐいす》だ
 178 に》でタクシーなんぞ、まだいくらでも走つとるだろ」
 179 ニシジマ 「コヅカ大臣《だいじん》。そう野暮《やぼ》な、いいなやんな。キタヤマく
 180 んの血氣盛んなところは察してあげないと。イヒヒ」
 181 キタヤマ 「さすがニシジマ博士《はかせ》！」
 182 ジュリー 「ともかく、ホールの直径が徐々に大きくなっています。Hデンのスタンバイを
 183 要請いたします」
 184
 185 ハハハとばかりに咳払いをするコヅカ
 186
 187 コヅカ 「Hデンの運用は既に国連から我が国の防衛省に移管されているのでありますか
 188 らして、その判断は、こちらでさせていただきます」
 189 ジュリー 「し、失礼しました」
 190 コヅカ 「ホールの時空振動率《じくうしんどうりつ》が七十ペーセントを超えた。これ
 191 よりフェーズ・ワンに移行《いこう》する。再び巨人《きよじん》が出てくる可能性
 192 も想定し、エデンの出動を申請する」
 193 オペA 「了解。エデン、発進承認コード送信」
 194 コヅカ 「種子島の総理には緊急で帰京するようにお伝えしろ。報道管制も施行《し》う
 195 《。NHKの衛星回線は、こちらに委譲《いじょう》させるように。マニユアルどおり
 196 行けよ！ それから不死鳥の打ち上げ中止を文科省《もんかしよう》に打診しておけ。
 197 判断は向こうに任せや」
 198
 199 コヅカの偉そうな振る舞いを見ながら、キタヤマはニシジマに耳打ちする
 200
 201 キタヤマ 「で、状況はどんなです？」
 202 ニシジマ 「資料はモバイルに送ったのに、見てないのか？」
 203 キタヤマ 「巨人とやりあうのはオレなんすよ。フロリダでは肩すかしで済んだものの、ル
 204 ソン島《とう》ではコテンパンだったじやないですか。今度はホントに大丈夫なんで
 205 すか、つてことですよ」
 206 ニシジマ 「あれから三年も経つたんだ。機能は充分強化してある」
 207 オペB 「内閣総理大臣の承認信号確認」
 208 オペA 「エデン、スタンバイ。ダイバーは搭乗せよ」
 209 キタヤマ 「充分って、巨人の正体もわかつてないクセに」
 210 ニシジマ 「ルーフケイズ・フィルターの威力をバカにするな」
 211 コヅカ 「おい、キタヤマ主任。早くドツグに向かわんか」
 212 キタヤマ 「はいはい。(ニシジマだけに) オレはあのロイスって人、信用できないんすよ」
 213
 214 指令室から出でいくキタヤマ。それを見送るニシジマ、独り言のように
 215
 216 ニシジマ 「それは、そうだが」
 217 ジュリー 「わたくしは、ロイスにハのことを知らせておきます」
 218 コヅカ 「お願いします。わたしは、もうあの手の人間が苦手でね」
 219 ニシジマ 「ボクも行きましょうか？」
 220 ジュリー 「え。これはわたくしの仕事ですから。では、あとの指揮《しき》、頼みます」
 221
 222 ニシジマ 「お疲れ様です」
 223 コヅカ、ジュリーへの挨拶もほどほどにオペたちにゲキをこぼす
 224

- 225 ロジカ 「H「△」のシステムチエック、毎《ねいた》るなよー」
- 226 指令室から廊下に出たジユリエット。呼吸を整えて
- 227 228
- 229 ジュリー 「好《△》の》んで今《あ》いたい人《△△》なん、こののですか…」
- 230 231 ○シーン5 ミナミのアパート。朝6時50分
- 232 233 玄関で靴を履くミナミ。ソラは居間でテレビにかじりついたまま
- 234 ミナミ 「夕飯《ゆうはん》には戻れると思つかない、一応、マルヤでお惣菜《ゼンゼン》
- 235 買つとして」
- 236 ソラ 「ねう、まかしとけ！」
- 237 ミナミ 「じゃ、行つてくれ」
- 238 ソラ 「健闘を祈る！」
- 239 ミナミ 「ほんと心のない人だよ…」
- 240 241 ○シーン6 埼京線 大宮駅 朝7時
- 242 243 いつも以上に混雑しているホームに上がつてく△△
- 244 ミナミ 「凄い人。なんかあつたのかな？」
- 245 (別) JR大宮駅員 「今朝六時半△△、当駅と北与野《きたよの》駅の区間内にて緊急停
- 246 止信号が確認されたため、上《のぼ》り電車の運行を見合させておりましたが、安全
- 247 の確認がとれましたので、間もなく発車いたします。△△利用の方は、△△乗車になつて
- 248 お待ちください」
- 249 ミナミ 「△△乗車つて、これはちよ△△決死《け△△》の覚悟《かく△△》が必要だわ…」
- 250 251 ラッシュの電車にねじり△△むように乗り込む△△
- 252 253 ミナミ 「△△、スマゼン…乗り、ます…」
- 254 255 発車する埼京線、上り
- 256 257 ○シーン7 ロイスの隔離房 朝7時
- 258 適温だがロイスの要望で湿度が高く照明も暗い隔離房。金属の壁は声を反響させる
- 259 6畳間のフローリングにはベッドと洗面所、トイレがあるだけで殺風景な作り
- 260 ロイスはベッドの上であぐらをかきながら、ほくそえんでいる
- 261 彼の体臭を不快に思いつつも、凛と立つ任務に忠実なジユリエット
- 262 263 ジュリー 「状況はそのような具合です。なにか△△意見はありますか？」
- 264 ロイス 「フフ。間違いなくノエディーが来るね」
- 265 ジュリー 「ノエディー? ノエディーとは何ですか？」
- 266 ロイス 「おつとスマン。君たちの間《あいだ》では巨人《きょじん》と呼んでいるんだ
- 267 つたな」
- 268 ジュリー 「ノエディー…巨人の出現をどうして知る△△ができたのです？」
- 269 ロイス 「フフ。それはまだ言えないね」
- 270 ジュリー 「あなたの要望は出来る限り叶えていくつもりです。△△の世界でホールと巨人
- 271 の情報を知つているのは、あなただけなのです。被害を最小限に抑え込むためにも」
- 272 ロイス 「なら、この前出てきたアイスクリームというものをくれ」
- 273 ジュリー 「! アイスクリーム?」
- 274 ロイス 「あれは冷たくて美味《うま》い。アドレマイズにはない味《あじ》だ」
- 275 ジュリー 「すぐ用意させます」
- 276 ロイス 「冗談だよ。あんた、本当に眞面目だね」
- 277 ジュリー 「じょう、だん…?」
- 278 ロイス 「そんなんじや、男にモテないだらうな。しかも酒臭い。ブランデーと△△やつ
- 279 だな」
- 280 ジュリー 「そんなに飲んでは…」

- 281 ロイス 「ノエディーが出現するとか、デモンコアが光るのぞ。そしてそれは、わたしも
- 282 感ずる」
- 283 ジュリー 「あのクリスタルが反応するというのですか？」
- 284 ロイス 「デモンコアはノエディーの探知機だと言つてもいい。他にも様々な機能がある
- 285 が、まあ、それは今、説明する必要はないだらう」
- 286
- 287 壁の受話器をとり、指紋認証ボタンを押すジュリー
- 288
- 289 オペB 「はい。指令室」
- 290 ジュリー 「ランドバーグです。デモンコアの反応に変わりはありませんか？」
- 291 オペB 「今、確認します」
- 292 ロイス 「無駄だよ。君たちのテクノロジーでは感知できん」
- 293 オペB 「…特にデータに変化はありませんが」
- 294 ジュリー 「ミスター・コヅカに映像でチェックするよう伝えてください」
- 295 ロイス 「気を付けるよ。カメラの素子《そし》が焼けてしまうかもしれんぞ」
- 296 ジュリー 「そんなことまで…あなたはどこまで『存知』《ぞんじ》なのですか？」
- 297 ロイス 「フフ。少なくとも君たちより詳しい」とは、既に証明済みだと思うがね。わたし
- 298 は、ロイス・バイツトン・トイズヴェル・ベア・ルジュルだよ」
- 299
- 300 ○シーン8 初エデン発進シーケンス 7時 10分
- 301 ハデンの初発進で緊張が走る指令室。コンソールパネルから聴こえる様々な電子音
- 302 ハデン胸部の操縦席にキタヤマの座るシートが奥からスライドして定位置で止まり
- 303 背面ハッチが上下から閉じられると、足元から液体が水嵩を増してくる
- 304 液体が充填されるとシートは半固定となり液体に浮いている状態になる
- 305 メカのコントローラーはプレステのパッドのようなもので行う
- 306
- 307 オペA 「ハデン、収納容器《しゅうのうようき》、減圧《げんあつ》開始」
- 308 オペB 「拘束《こうそく》用アンカーボルト、ロック解除」
- 309 オペD 「ダイバーとのシンクロシステム起動」
- 310 キタヤマ 「シンクロシステム、起動。ダイバーはキタヤマ・リョウで行きます」
- 311 オペA 「声紋照合《せいもんしょうごう》およびバイタルサイン確認」
- 312 「コックピット内へのRFL《あーる・えふ・える》充填《じゅうてん》完了」
- 313
- 314 ハデンの操縦室に液体呼吸用の液体が注入される
- 315
- 316 キタヤマ 「潜《もぐ》るのは好きじゃないけど…」の浮いてる感じは安心しちゃうから不
- 317 思議だね」
- 318 「大臣、デモンコアに発光現象が起きています」
- 319 オペC 「なんだと？ あの男の仕業か？」
- 320 コヅカ 「ロイスによると、巨人が出現するサインだといふ」
- 321 オペB 「今まで隠していたわけか。いけ好かないヤツだ。聞いたかキタヤマ主任」
- 322 コヅカ 「感動して涙が出そうですよ」
- 323 キタヤマ 「ルーフケイズ・ドライブ、接続。エンジン出力上昇。アイドリングからミドル
- 324 オペA 「レンジで固定」
- 325 レンジで固定
- 326 キタヤマ 「ルーフケイズ・フィルター、展開」
- 327 ハデンの全身を、頭からつま先に向けて薄いエネルギーの膜が覆う
- 328
- 329 オペD 「フィルター確認。最大効果定数《さいだい》《うかていすう》、四五〇ルースト」
- 330 「よし。エデン、リフトアップ」
- 331
- 332 ハレベータが上昇し、発進ゲートに向かうエデン
- 333
- 334 キタヤマ 「巨人と戦うつたつて、ショミレーシヨンがあてになるとも思えないけどね…な
- 335 んで、巨人がでたら速攻で逃げますんで」
- 336 コヅカ 「国連から運用権を譲り受けるために、どれだけ苦労したのか教えただらうが。

- 337 この日のためのエデンだ。恥をかかすなよ」
- 338 キタヤマ 「わかつてますつて」
- 339 ニシジマ 「ホールの状態がルソン島のときに酷似 《リバジ》している。確率は高いぞ」
- 340 キタヤマ 「税金からもらった給料分は働きますよ」
- 341 オペA 「ルーフケイズ・エンジン。リアクター、正常値。バックアップ対応用静止軌道
- 342 衛星とのリンク、一番から十番。回線接続を確認。全システム良好」
- 343 オペB 「昭和記念公園内の民間人、ゼロを確認」
- 344 コヅカ 「ゲート、開け」
- 345 昭和記念公園の一角にあるゲートが開く
- 346 347 キタヤマ 「エデン。発進します！」
- 348 349 ハデン、ティクオフ！
- 350 351 オペD 「ルーフケイズ・フローター、安定領域。小笠原ホールへの到達予想時間、マル
- 352 ハチマルゴ」
- 353 コヅカ 「しかし、早朝にあの光は目立ち過ぎだな。極秘行動なのに誤魔化しようがない
- 354 …」
- 355 ニシジマ 「三〇メートルの機体を隠そそうと思う方がどうかしてるとは思いますがね。しか
- 356 357 もあんなキヤノン砲とシールドを抱えて」
- 358 359 ○シーン9 りんかい線車内 8時04分
- 360 ミナミの乗つたりんかい線が天王洲アイル駅を通過する
- 361 ミナミは教科書に記載された北欧神話の詩集・古エッダ中の【巫女の予言】の一説を読
- 362 んでいる
- 363 364 ミナミ 「わたしはおぼえている。太古に生まれ、その昔わたしを育ててくれた巨人のこ
- 365 とを。九つの世界。九つの根を地下にはりめぐらした、あの宇宙樹 《うちゅうじゅ》
- 366 を、わたしはおぼえている——これはユグドラシルのことね」
- 367 車内アナ 「まもなく天王洲アイル。天王洲アイルです。東京リニア羽田空港線、大江戸ラ
- 368 イナーをご利用の方はお乗り換えです」
- 369 ミナミ 「あれ？ もうそんなに来たんだ。けつこう順調だつたな。さすが埼京線。でも、
- 370 もう少し詰め込まなきや」
- 371 372 ○シーン10 小笠原半島・南鳥島近海■■キロ ホール上空 8時05分
- 373 東京から千八百キロ離れた海域を飛行するエデン
- 374 海面が発光し、きれいに切り取られたような大きな円がみえる
- 375 376 オペA 「エデン、指定座標に現着《げんちやく》しました」
- 377 キタヤマ 「いやはや。こういうの、東京ドーム何個分っていうんだろ。海に丸い穴が空く
- 378 だなんて、モーゼに教えてあげたい気分だね」
- 379 コヅカ 「気をつける。これまでロイスの発言が嘘だつたことはない。ちなみに、十三個
- 380 と三分の二、だ」
- 381 キタヤマ 「全然イメージわきませんけどね」
- 382 オペC 「時空振動率が九五ペーセントを超えます」
- 383 ニシジマ 「これは来るぞ。キタヤマくん！」
- 384 385 ホールの中心が発光し、そこから生えてくるように現れる巨人の足
- 386 キタヤマ 「もう、三本足が見えてるんですけど」
- 387 オペA 「巨人、出現！」
- 388 キタヤマ 「ルーフケイズ・フィルター、出力を七百ルーストまで上昇」
- 389 オペD 「ルソン島のときと同形《どうけい》と思われます」
- 390 オペB 「映像、出ます」
- 391 ニシジマ 「サイクロプス・タイプか」
- 392

- 393 コヅカ 「装甲《そうじゅう》の色が赤いぞ」
- 394 キタヤマ 「巨人は一体だけだって聞いてますけど…」
- 395 指令室にジュリーが戻つてくる
- 397 ジュリー 「カメレオンのような性質なのかも」
- 398 ニシジマ 「チュパカブラの刺《とげ》と一緒になのかもしれない」
- 399 キタヤマ 「あのハイレグの三脚野郎に言つてやつてください。逆立ちで出でてくるのは失礼だぞつて」
- 400 ジュリー 「ロイスに伝えておきましょ。会話ができる話ですが」
- 401
- 402
- 403
- 404 *** 収録中断箇所 ***
- 405
- 406 オペA 「巨人、浮上します。全長掌握《ぜんちょうしょうあく》。五十メートル」
- 407 ニシジマ 「大きくなつてるというわけか」
- 408 コヅカ 「向こうが仕掛けてくるまでは攻撃するなよ」
- 409 キタヤマ 「わかつてます。その替わり、くだらない規則を作つたことを後悔しないでくださいよ！」
- 410 ジュリー 「国际法《こくさいほう》です」
- 411 ニシジマ 「ソロモン条約が間違つては言わんが、今は破つても良い氣がするなあ」
- 412 オペA 「巨人、姿勢を逆転。両腕をあげます」
- 413 ニシジマ 「やつもRF技術を使つてるつてわけか」
- 414 キタヤマ 「ルソン島で撃ちやがつた変な破壊光線なんじやないですか？ やつちやいましょうよ！」
- 415 ジュリー 「ダメです」
- 416 コヅカ 「ここは我慢だ。幸い南鳥島《みなみとりしま》に民間人は住んでいない」
- 417 キタヤマ 「だからつて」
- 418 オペC 「巨人周辺のルーフケイズ結界濃度が減少しています」
- 419 ニシジマ 「射線上に小笠原群島《おがさわらぐんじゅう》。誤差、プラスマイナス・コノマ
- 420 オペA 「巨人、旋回《せんかい》」
- 421 オペB 「盾《たて》になる覚悟はできたか」
- 422 五「
- 423 コヅカ 「それでも八百キロはある」
- 424 キタヤマ 「ジュリエットさん！」
- 425 ジュリー 「ダメです」
- 426 コヅカ 「盾《たて》になる覚悟はできたか」
- 427 キタヤマ 「とつくな！」
- 428 ニシジマ 「フィルターのパワーはルソン島のときの百倍だ」
- 429 キタヤマ 「まったく安心できませんけど！」
- 430 オペA 「巨人の腕の発光現象、始まりました」
- 431 キタヤマ 「完全に敵でしょ！」
- 432 オペA 「腕を振り下ろします」
- 433
- 434
- 435 巨人の腕の先端が赤く輝く。吼える巨人
- 436
- 437 キタヤマ 「絶対に撃ちますよ、これ！」
- 438 ジュリー 「良《いい》いでしょ」
- 439 コヅカ 「よし、行け！」
- 440 オペA 「巨人が光線を照射！」
- 441 キタヤマ 「フィルター最大展開！ RF《あーるえふ》キヤノン、撃ちます！」
- 442
- 443
- 444 操縦桿のトリガーを引いてキヤノン砲の発射音から電車の走行音に移行
- 445 ○シーン11 東京・お台場 りんかい線車内 8時10分
- 446 埼京線から直通乗り入れで模試会場に向かうミナミ。車両内は満員。
- 447 埼玉から乗つてているミナミは席に座つて、単語帳をめくつて最後の追い込み中
- 448

449　　「ナ」　「鉢《ほゝ》」の世、剣《つるぎ》の世が続き、楯《たて》は裂け、嵐の世、狼《おおかみ》の世が続いて、ひとりとして他人をいたわる者なからん——ほろびの運命
450　　の田、ラグナレク：怖ぞ、
451　　りんかい線車内アナ（杉宮）「国際展示場。国際展示場です。出口は右側です。This sta
452
453
454　　tion is 国際展示場。The doors on the right side will open」

りんかい線車内アナ（杉田）「国
tion is 国際展示場. The do

「国際展示場」は、国際展示場です。左側のドアは、国際展示場内アナ（移動）用です。右側のドアは、国際展示場外アナ（移動）用です。」

ミナミ 「あ、降りなきや」

席から立ち上がるミナミ

ミサミ 一あの、スマセン、降ります…」

○ シーン12 国際展示場駄・地下ボックス

ホームを出ていく、りんかい線。発車音はFANTASIAで、ミナミ、混雑した地下一階ホームに降りて、右手のスマホ

国際展示場駅アナ（歩川）「二番線から電車が発車します。ドアが閉ま

国際展示場駅アナ（歩川）「本日も、りんかい線をご利用くださいましてありがとうございます。ただいま、八月二二日まで、ラケモン・スタンプラリーを実施中です。今年はりんかい線の全駅のスタンプを集めてゴールに行くと、素敵な賞品をプレゼントします。スタンプ台の設置時間は朝9時から夕方5時まで。ゴール駅での商品引き替えは朝十時から夕方四時までです。この夏は、ラケモン・スタンプラリーに参加しませんか。詳しくは駅のポスター、パンフレットをご覧ください。スタンプラリーをお楽しみいただく場合、駅のホームや電車の中で走ったり、騒いだりせずに、マナーを守つてお楽しみください」

上りエスカレーターに乗るミナミ

ミナミ「まずは改札を抜けてそのまま、三つ左

唯踏のガヤで小笠原での異変のニユリスを見た人たちはザフツ始める

青年A 「小笠原で自衛隊の戦闘機が墜落だってよ」

青年 A 「ハッピーハウスで目撃されたUFOが隕石か？」
青年 B 「こっちの掲示板じや、UFOだって言つてるぞ」
青年 C 「立川でデッカいロボットみたつて、フェイスブックで写真出てるけど」

青年 D 「それツイッターでも見たぜ」
青年 E 「それ宇宙人とかじやね？」

青年 F 「日本綱」丁のお知らせ的だ
青年 G 「どうせまたガセでしょ」

青年 H 「三年前の潜水艦爆発と同じなんじやねーの？」
青年 I 「バカ！ あれはセクター・ナインの秘密実験なん！」

雜踏の声は耳に入らないミナミは歩きながらタブレット端末を見る
書いてあるのはゲーテの有名な詩「神性」の一節。たどたどしく読む

ミナミ 「ただ人間だけが不可能なことをなし得《う》る。人間は区別《くべつ》し選《えら》び、かつ裁《さば》く。人間は瞬間を永遠《えいえん》なものにすることがで
きる・・うーん、ゲーテとか、わけわからんし。ほんとにこんな問題でたら文学は厳

地上にでる。強い陽射しで蝉が鳴いている

505 ミナミ 「うわ、溶けそう…」
506 507 左手の腕時計をみて
508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560

○シーン13 小笠原諸島 海上 ホール上空 8時11分
エデンが担いだキヤノン砲が光線を放つ
巨人の光線とエデンのキヤノンからの光線がぶつかり、エネルギーが爆発中
オペD 「RFキヤノン、押されています！」
キタヤマ 「博士、やりますよ、アレ」
ニシジマ 「いきなりだが、仕方ない」
コヅカ 「いいですね。本部長」
ジユリー 「どうぞ」
コヅカ 「許可する」
キタヤマ 「了解！ リミッター解除！」
ヒデン操縦席内のメーターがすべて振り切る
ヒデンのキヤノンの出力が上がる
オペD 「ハンジン出力、千五百ルースト。最大値です」
オペC 「ヒームが巨人の装甲を焼いています！」
ニシジマ 「想定通りの効果だッ！」
キヤノン、巨人に直撃。照射され続ける
オペC 「ヒームが巨人の装甲を焼いています！」
ニシジマ 「勝ったというよりは、逃げてくれたといつも」
吼える巨人
オペC 「時空振動率百二十パーセント！」
コヅカ 「百を超えるなどアリ得んはずだ」
ジユリー 「巨人が、沈んでいくわ」
ニシジマ 「勝ったというよりは、逃げてくれたといつも」
ヒデンの操縦席、指令室にアラームが鳴る
キタヤマ 「ちよつと待つて。なんか変だよ」
コヅカ 「どうした？」
オペD 「エデン。システム、オールレッド」
キタヤマ 「いや、なんていうか、その、全体的に薄くなつてません？」
ニシジマ 「確かに。機体が透明になつていく」
ジユリー 「光学迷彩機能《こうがくめいさいきのう》はオミシットしたのでは？」
コヅカ 「巨人の攻撃を受けたのか？」
オペD 「エデン、質量《しつりよう》減少！」
コヅカ 「なんだとッ？」
オペC 「エデンの質量が小さくなつていきます」
キタヤマ 「小笠原ホール、消滅しました」
オペC 「オレの両手も、そろそろ消えそうです。あ、足も」
コヅカ 「エデン周辺環境の各数値が平常に戻りました」
オペA 「エデンからのデータは！？」
ジユリー 「転送されてくる数値がすべてゼロに向かっています」
ニシジマ 「物理現象の理解を超えています」
「今更それを突つ込まれても…」

617 エデンの目からミナミに向けて光線が放たれる
618
619

620 局アナ 「なんと！ ロボットの目から光線が人に向けて発射されました！」

621 ミナミ 「おぶしヽツ！」

622
623
624

エデンからの光線がミナミに命中する

625 局アナ 「消えました。一瞬で蒸発！ 少女が一人、殺されました…」

626
627
628

○シーン17 立川基地・指令室
壁のスクリーンに映った光景に騒然となる指令室

629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671

コヅカ 「今のはなんだ！」
ニシジマ 「あんなもの、追加した覚えは」
ジユリー 「エデンが人を殺《あや》めてしまうなんて」
コヅカ 「内閣総辞職ぐらいじや済まんぞ」
オペA 「エデンとの通信回線、チャンネル同調」
ニシジマ 「キタヤマくん、聞こえるかね」
オペB 「応答ありません」
ジユリー 「バイタルサインは？」
オペD 「バイタルサインは？」
コヅカ 「ありませ…いや、正常に受信」
コヅカ 「生きているなら答える。キタヤマ主任」

○シーン18 エデン操縦席

キタヤマは柔らかいものをヘッドギアに押しつけられている
ヘッドギアのバイザーは通常跳ね上げられているため、それが直接顔にあたっている
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671

12 / 55

618 狹い操縦席に押し込められて苦しそうなミナミ
ミナミの胸をヘッドギア越しに押し当てられて窮屈なキタヤマはミナミの胸を押し返す

ミナミ 「ちよ、ちよっと、触らないでください…」

○シーン19 指令室

オペD 「ダイバー・レコード・システムに二重登録《にじゅつといふく》エラー発生」
ニシジマ 「なんという想定外…」

○シーン20 エピソード・ワン エンディング～次回予告

ED主題歌 1分30秒

673 次回予告用BGM

ミナミ 「普通の高校生が急に大きなロボットで戦うなんて、実際、非常識にもほどがある、と思うの。しかも、パイロット・・ダイバーっていうらしいけど、それがわたし以外にいないだなんて…」

キタヤマ 「何いってんの、おれがいるじゃないの」

ミナミ 「キタヤマさんなんて、大ツキライ！」

N 戦闘 『次回、超鬼兵ガルヴァイド エデン・ダイバー。Hピソード・ツー。『音速の

ミナミ 『ねたし、乗りませんから…』

○Hピソード2・アイキヤツチ
glitter | — = 12秒

686 ○シーン21 アバンタイトル 立川基地・応接室

688 蟬が鳴く昭和記念公園、地下にある立川基地
午前十時。エアコンの効いた八条間ほどのフローリングの室内

689 高級なソファーに座るミナミの前に座る立川基地の面々
ミナミは戸惑いの表情を隠せない

692 ミナミ 「でも、わ、わたし、模試『もし』に行かないと。…それに、バイトも、部活も

694 あるし」

695 コヅカ 「君の生涯報酬『しようがいほうしゅう』が幾『いく』らになるのか、やつきの

696 説明 『レク』ではわかつてもらえていないようだな」

697 ニシジマ 「無理もない。唐突『とうとつ』すぎる話だからね」

698 キタヤマ 「オレも結構迷ったもんね」

699 ジュリー 「嘘はいけません」

700 コヅカ 「ともかく、今は国家の、いや世界的な緊急事態だ。君に選択肢『せんたく』》

701 がないわけでもないが、よく考へることだ」

702 703 ニシジマは米人のジュリーを横目で見ながら

704 ニシジマ「ダイバーシステムのエラーを解除できないとは、シリコンバレーも役に立たん

705 706 ものですのお」

707 ジュリー 「出来ないのではなく、三年かかると言っているのです」

708 コヅカ 「巨人に電報でも打つのか？ 次回は四年後にしてくれと」

709 キタヤマ 「まあまあ、ここは巨乳ちゃんのことを第一に考えてあげないと」

710 ジュリー 「そうでした。本当にごめんなさいね、ミナミさん」

711 ミナミ 「あの…」

712 ニシジマ 「ないだい？」

713 ミナミ 「止『や』めてください…巨乳ちゃんって言うの…」

714 ○シーン22 オープニング

715 716 「アドレマイズの混沌が、人類の歴史に爪痕を残した惨事から、すでに十数年が経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯えなければならなかつたのだ。果たして救世主はど…にいるのか。それは誰にも答えることができなかつた…」

717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 ○前回のあらすじ
N 「小笠原ホールから出現した巨人に対抗するため出撃したエデンは辛『から』くも撃退に成功するが、空間転移現象によって有明埠頭上空に飛ばされる。そこで、女子高生ミナミと遭遇し、直後、エデンはミナミをダイバーとして登録してしまったのだ

729 つた

730 ○シーン23 ブルハトウ移動艇

731 地球攻撃の最前線として派兵されているブルハトウの小型移動艇が、マリアナ海溝の最

732 下部で待機している

733 その戦闘指揮室で苛立ちを隠せず歩き回るガナミア

734 それを怪訝な視線で追うボグライ

735 ガナミア 「けしからん。まつたくもってけしからん」

736 ボグライ 「ガナミア様。そんなに歩き回りますとダマスが足りなくなります」

737 ガナミア 「ボグライ！ おまえは腹が立たんのか？ ノエディーが傷を負わされたのだぞ！」

738 ボグライ 「ですからそれは我々のいる移動艇のダマスを維持するために、ノエディーから

739 コンバータのペーツを多少、流用《りゅうよう》したからでありまして」

740 ガナミア 「わかつておる。それを命じたのは我々だ」

741 ボグライ 「さようでございます」

742 ガナミア 「あのギガンドールは瞬間転移《しゅんかんてんい》まで行《おこな》つた。前

743 ボグライ 「回よりも強化したらしいが、我々の調査によれば、あれはこの次元のテクノロジーで

744 ないことは明らか。もしやアドレマイズの手が入っているのであるまいな」

745 ボグライ 「可能性は低いですが考えられないことではないかと。それよりもダマスを」

746 ガナミア 「ダマス、ダマス！ ダマス： 我々はどうしてダマスの薄い」のような次元を

747 《じょうか》しようとしたのか？」

748 ボグライ 「それゆえの净化ではないのかと」

749 ガナミア 「わかつておる！ それを決めたのも我々だ！」

750 ボグライ 「では、せめてお座りになつてください」

751 ガナミア 「フン！」

752 ボグライ 「それゆえの净化ではないのかと」

753 ガナミア 「わかつておる！ それを決めたのも我々だ！」

754 ボグライ 「フン！」

755 壁際の王座に腰を下ろすガナミア

756 ○シーン24 立川基地・食堂 12時

757 ガナミア 「ボグライ。早急にノエディーを修復し、あのギガンドールを抹殺するのだ」

758 ボグライ 「ははあ」

759 一人、亜運の呼吸で

760 ガナミア・ボグライ 「すべては净化のために！」

761 ○シーン24 立川基地・食堂 12時

762 かなり広く清潔感のある食堂。昼時のため多くの人が食事をしている

763 フロアには巷で人気の♪らいつ☆、が流れている

764 壁際の小さなテーブルを挟んで座っているキタヤマとミナミ

765 キタヤマはカレーの大盛りを食べている

766 ミナミはラーメンを前にして、うつむいている

767 キタヤマ 「どうしたの？ このランチ、なんでも美味しいんだぜ。食べないなら貰っちゃ

768 うよ。延びちやうともつたいない」

769 ミナミ 「…わたし、いつになつたら帰してもらえるんですか？」

770 キタヤマ 「とりあえず、巨人を倒さない事には一区切りつかないんじやないの？」

771 ミナミ 「その、巨人つて、一度負けてる相手なんですよね？」

772 キタヤマはミナミのラーメンを自分の前に持ってきて食べながら

773 キタヤマ 「今朝は打撃を与えた。勝てる可能性はある」

774 ミナミ 「でも、なんで、わたしなんですか？」

775 キタヤマ 「さあね。だいたい、なんでオレなのかも、よくわかつてないし」

776 ミナミ 「それで、よく、あんなものに乗つていられますね」

777 キタヤマ 「モテるんだよねえ。」の肩書きつて」

785 ミナミ 「は？」
786 キタヤマ 「国家安全保障委員会・特別分室。この特別分室つてのが肝心で、これでたいが

787 いの女の子は落ちるね」→キタヤマは嘘を言つています
788 ミナミ「そんな……」

「もつとも、このオレの精悍『せいかん』なマスクと甘い声。そして、決め手は

「無理です」
「ナニ」
「鍛え上げられた肉体美。」
「これだけでも鬼に金棒なんだけど」
791

792 キタヤマ 「なにが？」
793 ミナミ 「わたしは出来ません」

794 キタヤマ 「なにを？」
795 ミナミ 「ロボットの暴徒なん

出来るわけありません
ミナミ「ロボットの操縦なんて
キタヤマ「そりやそうだよ」

191
798
ミナミ 「え？」
キタヤマ 「だから練習あるのみ、(トト)と」「

「れんしゅう…」
「難だつて最初はうまくいかない。でも、何度も繰り返すことでも、クリアできる」
ミナミ
キタヤマ
800
799

801 シタハ一船がて最初にさかんがたい
802 ハナハ「繰り、返す…」

802 キタヤマ「それがあらゆる格闘系ゲー
803 ゲームマスターの結論だ」
804

805 804 803
「げ、
げーむ、
ますたー…」

806
807
厨房の方でオーダーを受ける声

808 食堂女子（歩川）「冷やし中華四ツ。回鍋肉《ほいこうろう》一ツ、入りましたあ～」
809 ト里、二つ（トモノツツ）「つづいて、（トモコトモ）」

料理人たち (みんなで) 「ありがとうございますッ!」

○シーン25 立川基地・会議室 13時
エデンの変化についてプロジェクトで報
811
812

それをバイブル椅子に座つて聞くコヅカ、ジユリー、キタヤマ、三ナミ
モニターニーで参加するコイス

モニターとして参加するロイブ
815
816
腕組みをしたコヅカはかなり苛ついている

817 818
二三三「どうわけで、現状報告とボクの見解は以上です」

1818
1919
コヅカ 「了解だ。しかし、エデンの操縦席が、なぜ突然二つになつたのかは、説明でき
んというわけか?」

820 キタヤマ 「昼飯直後」や眠たくなる内容つすね、こりや」
821 ミナミ 「わの」

822 ニシジマ 「ICMC『あいしーえむしー』でも、ありえない状況だと悟っています。(シ) 822

824 825
826 ジュリー「開発時の設計仕様は厳格に精査されています。ですが、日本が独自に組み込ん
827 ュリーを横目で）まあ、いつものことですが」

825 だルーフケイズファイルターの増幅器は、わたくしたちにとつてはブラックボックスそ
826 のもの。引き起こされる現象は未知数です。責任が取れる範囲を超えていきます

ミナミ
……の 人たち わたしの 話
「……………」
せんせん聞いてた いのかも (涙)
「……………」
デモンコアが、ダイバーは「一人必要だと判断したのかもしれない」
ロイス

830 831
キタヤマ
「オレ一人じや勝てないってことですか？」
「フフ。そういうことだ」

832 キタヤマ
833 ジュリー 「バツサリと来たね」「では逆に、ダイバーが一人いれば、巨人に勝てる。」
「どうい」とですか?――

ニツカ一貴様ッ！ いや失礼、ロイス殿は巨人を倒す方法を知っているというから、こうして優遇されているということを、少しは理解していただきたい。あなたのいる

838 ポテトチップスを袋から取り出して食べる二ノジマ
839

841 ニシジマ 「ボクの研究費が削られるのかもね」
842 ジュリー 「ドクター・ニシジマ。スナックを食べるのは後にしてください」
843 ニシジマ 「これはボクの知恵の源《みなもと》なのですよ」
844 ロイス 「ノエディーは君たちの住むこの次元とは異なる世界に住むブルハトウという種族の破壊兵器だ」
845 族の破壊兵器だ」
846 コヅカ 「(苛立ち頂点)初めて聞く話だが」
847 「思い出したのさ」
848 ロイス 「この期に及んで、異世界でも異次元でも、もう全然驚かないですがね」
849 ニシジマ 「いじげん? わたし、そんな人たちと戦えるわけないよ!」
850 ジュリー 「そのブルハトウは、なぜわたくしたちの世界を攻撃するのですか?」
851 ロイス 「さあ、それはわたしも彼らに訊いてみたい質問だね」
852 コヅカ 「彼ら、という事は、ロイス殿はブルハトウとやらない会つた」とがあるのか?」
853 ロイス 「何個目か前の世界で、噂《うわさ》を耳にしたのさ」
854 ニシジマ 「まだ隠し事があったのか。呆れるね」
855 ニシジマ 「噂、ときたもんだ」
856 ニシジマ 「そこでもブルハトウは破壊の限りを尽くしたのですか?」
857 ロイス 「で、ようするに、どうやって倒せば良いと?」
858 コヅカ 「それはオレが一番知りたい項目だね」
859 キタヤマ 「テモンコアの力を最大に活かすには」
860 ロイス 「『デモンコア』の力を最大に活かすには」
861 ニシジマ 「まだ隠し事があったのか。呆れるね」
862 コヅカ 「活かすには?」
863 ○シーン26 マリアナ海溝・海底 ブルハトウ小型艇内
864 修復されたノエディーを観あげて満足げなガナミア
865 横に遣えるボグライ
866
867 ガナミア 「良《よ》いぞ。良《よ》いではないか。ボグライ」
868 「ははあ。お褒めに預かり光榮です。ガナミア様」
869
870 ガナミア 「青いノエディも、また美しい」
871
872 ガナミア 「この我々の分身であるノエディが、あの忌々《いまいま》しきギガンドールを
873 ボグライ「ダマスの変換効率を十テガロンほど調節いたしましたゆえ、青さにも深みが増
874 したかと」
875 ガナミア「この我々の分身であるノエディが、あの忌々《いまいま》しきギガンドールを
876 ボグライ「やつらが、いくらアドレマインズの力を持つていようとも、」のノエディの前で
877 ガナミア「その通り。我々の正義を妨げる者は粉碎するのみ。そして、この次元も浄化さ
878 れ、美しき楽園に変わるので。そうだな、ボグライ」
879 ガナミア「これで浄化の地盤づくりも完成に一歩近づくわけだ。我々の後続部隊が次元突
880 破するまであとわずか。しかし、このようなダマスのない次元など、いつそのこと一
881 握りに滅ぼしてしまえば良いものを、ズーラなどいう得体のしれぬフェアリア族の言
882 うことに耳を傾《かたむ》けるとは、総督《そうとく》の懐《ふところ》も、深すぎ
883 るとは思わぬか? ボグライよ」
884 ボグライ「ズーラの言う、ここ第五番世界には、我々の最も愛するものが蔓延していると
885 のこと」
886 ガナミア「それが何なのか、お前は訊いたことがあるのか!」
887 ボグライ「いえ。ですが、総督のご命令とあつては」
888 ガナミア「ダマスの濃度が極めて薄いこの次元に、我々に必要なものなどあらうものか。
889 総督は、なぜ、浄化の速度に長時間をかけて行うのか確認できないのは肝に据えかね
890 るな。ボグライよ」
891 ボグライ「次元を超えるにはバースト・フェノメノン《滅多に起きない現象》。十年に一度
892 くらい。宇宙的には頻発つて感じですが《※が必要であり》」
893 ガナミア「わかつておる。ギガンドールめ。次で最期にしてやる。そうだな——ボグライ。
894 お前がこのノエディーに乗り込み直接ギガンドールを倒すのだ」
895 ボグライ「なんと! そのような重責《じゅうせき》は」

- 896 ガナミア 「重責もなにもあるものか。我々の中でノエディーに最も詳しいのは誰だ？」
- 897 ボグライ 「わ、我々にて『』やります」
- 898 ガナミア 「ならば、ギガンドールを葬《ほうむ》り、万時《ばんじ》、事を進めるのに最
- 899 も適した者は誰か？」
- 900 ボグライ 「わ、我々にて『』やります…」
- 901 ガナミア 「では、早速、出陣の儀《ぎ》を執り行う準備をいたせ」
- 902 ボグライ 「ははあ」
- 903 ガナミア・ボグライ 「すべては浄化のために！」
- 904 ○シーン27 昭和記念公園 夜 24時
- 905 街の灯りも少なくなり静まり返った昭和記念公園敷地内にはヒグラシの合唱が響く
- 906 その一角でスポットライトを浴びてそびえたつエデン
- 907 それを少し離れたトーチカから見守る立川基地の面々
- 908
- 909
- 910 コヅカ 「予定の時刻だ。これから二六時までの二時間は、三〇キロ圏内上空の飛行禁止
- 911 も発令した。人避《ひとよ》けも徹底している。とはいっても、一度有明で姿をさらして
- 912 しまったエデンだ。パパラッチが望遠で狙つていなとも限らん。慎重に行けよ」
- 913 ロイズ 「今夜は良い湿度だな。あの部屋よりも気持ちが良い」
- 914 ジュリー 「わたくしたちは熱帯夜と呼んでいて、あまり好ましい環境ではありません」
- 915 ニシジマ 「あなたが防護服を着用せずに外に出られるというの、相当不快指数が高いと
- 916 いうことなんですよ」
- 917 ロイズ 「フフ。まるでナメクジ扱いだな。まあ、そこに腹を立てても仕方がない」
- 918 オペA 「エデン、ツインダイバー・システム・コントロール、スタンバイOKです」
- 919 オペD 「エデン胸部のデモンコアならびに操縦席内に異常なし」
- 920 ニシジマ 「積んだ途端にトラブつたら、ちょっとシャレにならんですが」
- 921 ロイズ 「デモンコアがエデンの中にいることを望んだのだ。問題なかろう」
- 922 ミナミ 「このお水がミーミルの泉で汲んだものだつたらいいのに」
- 923 ニシジマ 「ほお。北欧神話か。そういう意味では今キミはミッドガルドからヨツンヘイム
- 924 に入ったってことだ」
- 925 ミナミ 「そうでしょうか…」
- 926 キタヤマ 「場所は変わつたけど、見た目は前のまんま。ホントにダイジョブなんですか？」
- 927 ジュリー 「キタヤマくんは機体の姿勢制御のために集中してもらうことになつたのですか
- 928 ら慎重に」
- 929 ニシジマ 「彼用の操縦席が下半身にあるってのが、いかにもらしくていい。イヒヒ」
- 930 キタヤマ 「オレ、褒められてる？（笑）」
- 931 ロイズ 「姿勢制御以外をミナミに委ねたというのが面白い」
- 932 ジュリー 「ミナミさんに何らかの勝利の鍵があるということなのでしょうか」
- 933 ロイズ 「だと良いがな」
- 934 コヅカ 「中途半端な二人羽織だ」
- 935 ニシジマ 「まったくもつて不可解・極まりない話ですがね」
- 936 コヅカ 「胸部のミナミくんと下腹部のキタヤマ主任は無線と有線で通信できる。万が一
- 937 のために伝声管《でんせいかん》も取り付けた。場合によつては君たちの持つている
- 938 レス帳に誰も入つてないんじや、ないと同じだよ…」
- 939 モバイルでも話は出来るだろうがマナーモードにしておくようだ」
- 940 伝声管で遊ぶキタヤマ
- 941
- 942 キタヤマ 「『』いうの、映画で見たことあるよ。アーアー、聴こえる？ 『』乳ちゃん？」
- 943 ミナミ 「（つるるるるるる）聴こえます。…」こんな最新式のスマホわたされても、アド
- 944 レス帳に誰も入つてないんじや、ないと同じだよ…」
- 945 ニシジマ 「RFL《あーる・えふ・える》は液体なのに空気振動をロスなく伝搬《でんぱ
- 946 ん》できる。なのに衝撃波の吸収力は比類なき特性。これだけでもエデン以外に転用
- 947 できないなんて、ソロモン条約は人類にとって不利益な取り決めだと思いませんか？」
- 948 ジュリー 「どんな科学技術も、平和のためだけに使われると限らないのは、ドクターが一
- 949 番ご存知でありますよ？」
- 950 ニシジマ 「本部長に言われると説得力ありますな」

- 951
952 ○シーン28 昭和記念公園 24時30分
953
954
955
956
957
958
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
- コヅカ 「では打合せ通りに行く。操作マニュアルは読める位置にあるな。ミナミくん」
ミナミ 「『わたし、まだ、なにも返事してないのに…』あ、は、はい。目の前に貼つて
あります」
- コヅカ 「ダイバーウェアに違和感はありませんか？」
ミナミ 「はい。一応、大丈夫です」
- ニシジマ 「予備品とは言つても精査基準はクリアしていますからね。それよりも彼女のR
FLへの順応の良さに驚くばかりだ」
- キタヤマ 「でも胸がキツいんじやないの？」
ミナミ 「そんなことがありますん！」
- オペA 「コントロールテスト開始。右手の動作から順次記録します」
オペD 「エデン、システム・オールグリーン」
- オペC 「よし。はじめ！」
ミナミ 「(大きく息を吸つて) はい」
- 右手が少し動くエデン
- ミナミ 「手は動かせました」
ニシジマ 「ミナミくんの方はモーショントレース方式なんだから、これくらいはできない
とね」
- コヅカ 「よし。次だ。歩けるか？」
ミナミ 「…やつて、みます」
- 恐る恐る一步を踏み出すエデン。しかし、よろける
- ジュリー 「危ない！」
ミナミ 「え？ どうして？」
- オペA 「エデン、倒れます！」
コヅカ 「ターン・バツカル※ワイヤーに張力をかける装置のことです※起動！」
- エデンを牽引するために四方から伸びたワイヤに張力がかかる
- ニシジマ 「踏みとどまつた！」
キタヤマ 「なるほど、巨乳ちゃんの動きに呼吸を合わせないと、歩く」いきあえできないわ
けだ」
ロイス 「フフ。とんだ救世主だな」
ジュリー 「あなたの提案ですよ」
ニシジマ 「だが巨人に対抗するにはこうするしかない」
コヅカ 「なんというトレードオフだ」
キタヤマ 「大丈夫。いけますよ！ 巨乳ちゃん、もう一度歩かせて」
ミナミ 「は、はい」
- 歩き出すエデン
- *** 収録中断箇所 ***
- オペA 「歩行速度、時速■キロで安定しています」
ニシジマ 「おお、勘をつかんだか。さすがアスリートの鏡！」
ミナミ 「わたし、動かせてる。こんなに大きなロボットを」
キタヤマ 「いいぞ。よし、走つてみよう」
ジュリー 「いきなり危険すぎます」
キタヤマ 「走れたら今度デートしてくださいよ、ジュリエット本部長殿！」
ミナミ 「あなたがロミオでないのが残念です」
「いきます！」

- 1007 ミナミ 「走るよ。ロボットさん…」
- 1008 ミナミ、大きく息を吸う
- 1009
- 1010
- 1011
- 1012 走り出すエデン。BGMはとびうおジャンプ風
- 1013
- 1014 オペA 「走行速度、時速■、■、■（徐々に加速）」
- 1015 ニシジマ 「よ！ お見事ッ！」
- 1016 キタヤマ 「オレって、やっぱり天才かも」
- 1017 ジュリー 「もうこの辺でよろしいのではないですか？」
- 1018 キタヤマ 「これ、もしかして飛べちゃうかも！」
- 1019 コヅカ 「許可できん」
- 1020 キタヤマ 「じや、やめときます…と黙っちゃいられないのが、オレの性格！」
- 1021
- 1022 発光するエデン胸部に埋め込まれたデモンコアのケージ
- 1023
- 1024 ロイス 「ほお。デモンコアが輝きだしたか」
- 1025 オペD 「エンジン出力上昇。二千ルーストを超えます」
- 1026 ニシジマ 「これがデモンコアのチカラ」
- 1027 ジュリー 「ダイバーが二人になつただけで」
- 1028 ニシジマ 「いや、もつと根本的に何かが変わった可能性がある」
- 1029 ミナミ 「とつても軽い。：新しい靴を履いたときみたい」
- 1030 キタヤマ 「よし、飛ぶぜ！」
- 1031 ミナミ 「はい」
- 1032
- 1033 飛翔するエデン。引きちぎれる牽引ワイヤーロープ
- 1034
- 1035 ニシジマ 「飛んだ」
- 1036 コヅカ 「バカめ。大事なワイヤーを引き千切りおつて。二億円が水の泡だ」
- 1037 ロイス 「ケチな人種というのは、どの世界にもいるものだな」
- 1038 ジュリー 「あの二人、本当にはじめてなの…」
- 1039 キタヤマ 「初体験《はつたいけん》にしては上手いじゃないか」
- 1040 ミナミ 「やめてください。そういうの」
- 1041 ニシジマ 「意味はわかるよだな。イヒヒ」
- 1042 ミナミ 「…え？」
- 1043 キタヤマ 「いいねえ。その調子、その調子」
- 1044 ロイス 「すばらしい『…まさに予定通りだ』」
- 1045 ミナミ 「でも、とんでも。わたし、空を飛んでる」
- 1046 コヅカ 「よし。起動テストは終了だ。エデンはすぐ降りてこい。仮眠の後、朝食をとつ
- 1047 て6時からブリーフィングを行う。食べざる者、働くべからず！」
- 1048 キタヤマ 「了解ッ！ オレ、カツ丼と味噌ラーメンのセットで行きます！」
- 1049 ミナミ 「なんか、これでいいの？ ほんとに…」
- 1050
- 1051
- 1052 ○シーン29 ノエディー発進の儀式
- 1053 ノエディ発進に伴い行われる儀式
- 1054 ブルハトウの小型艇内格納庫で発進準備が整つたノエディに呪いの術をかけるボグライ
- 1055 ボグライ「♪ニヤマラー ゾノムヒ・ズベラドー ラマソフトーラ ヌルパン カサド・
- 1056 クラ（3回繰り返す）
- 1057
- 1058 それをガラス一枚隔てた隣の部屋から見るガナミア
- 1059
- 1060 ガナミア「なんと誇《ほこ》らしき勇士《ゆうし》。我々のノエディーが浄化の道するべ
- 1061 を切り開くのだ。さあ、ボグライよ。こぞかしいギガンドールをお前のその手で切り
- 1062 刻み、ルーフケイズの塵《ちり》に換え、ダマスとして喰《く》らうのだ！」

1063 ボグライ・ガナミア 「すべては浄化のために！」

1064 ○シーン30 ノエディー出現 5時

1065 立川基地の仮眠室。時計の秒針の音だけが聴こえる

1067 眠っているキタヤマ。いびきを搔いている。

1068 大の字に寝ていると思つたらシーツを抱えて寝言を言う

1069 1070 キタヤマ 「あとみチヤン、もつと遊ぼうよお～」

1071 1072 二段ベッドの上段で眠れないミナミ

1073 1074 ミナミ 「どうしよう。こんなことになって、わたしには絶対無理だよ…」

1075 1076 立川基地レーダー網にアラート

1077 1078 コヅカは目をさまし、枕元のヘッドセットを耳に当てる

1079 1080 コヅカ 「何があった？」

1081 1082 オペB 「マルヨンゴーロクから小笠原ホールの反応が急上昇しています！」

1083 1084 コヅカ 「なんだと！」

1085 1086 1087 1088 1089 1090 1091 1092 1093 1094 1095 1096 1097 1098 1099 1100 1101 1102 1103 1104 1105 1106 1107 1108 1109 1110 1111 1112 1113 1114 1115 1116 1117 1118 ○シーン31 立川基地・指令室 午前五時二〇分
壁の大型スクリーンを前に立つ、コヅカ、ジュリー、ニシジマ
オペC 「マルゴーフタマル。小笠原ホールの時空振動率が九〇パーセントまで推移して
います」
オペA 「エデンのツインダイバー・シンクロシステム、正常に作動中」
ニシジマ 「ブルハトウにメールくらい打たなかつたんですか？」 ジュリエット本部長
ジュリー 「送れるわけがありません」
ニシジマ 「ごもつともで」
キタヤマ 「カツ井と味噌ラーメンの恨みは晴らさせてもらうぜ」
コヅカ 「いいか、ミナミくん。いきなりの実践だが、キタヤマ主任がカバーしてくれる。巨人との距離は一キロメートル以上接近しないこと。キヤノン砲の使用回数は五発が限界だ。リアクター・シールドは常に前面に構えること。そして絶対に近接戦闘は避けること。昨日『きのう』の今日『きょう』だ。ブルハトウが巨人のバリアを強化していないことを祈つている。君しかいないのだ。わかったか？」
ミナミ 「（小声で）わかりません」
「（怪訝に）なんだと？」
コヅカ 「（諫めるように小声で）ミスター、コヅカ」
オペC 「小笠原ホール。時空振動率百パーセント」
キタヤマ 「大丈夫だよ、巨乳ちゃん。オレがついてる！」
ミナミ 「巨人との距離だとか：・盾を前に構えてろとか、できません！」
ニシジマ 「正論ではある」
オペA 「巨人、出現」
コヅカ 「できんでは済まない状況なのだ。エデン、リフトアップ！」
エレベータで発進ハッチに上昇するエデン
○先シーン32 エデンの飛行が生中継される 午前五時三〇分
中継車のルーフドアを開けて身を乗り出して、上空を飛行していくエデンを見ながら中継するマナカ

先・マナカ 「こちら現場のマナカです。現在時刻は朝五時三〇分。立川市にある昭和記念公園に到着したところです。ご覧ください。公園の中心付近から、金色の粒子の軌跡を残しながら、高速で移動する物体が飛び立ちました。シルエットからして通常の飛行機ではありません。昨日の朝、有明に現れた巨大ロボットに間違いありません。我が国は、あんなものを隠し持っていたのです。アドレマインズ事件から十三年経った現

1119 在で、いんないことが許されて良いのでしょうか！ 都市伝説は本当だったのです！

1120

1121 中継用音声回線を一度切るディレクターのホンマ

1122

1123 ホンマ 「おいマナカ。もう少し御しとやかにいけよ。こつちは不法侵入してるんだ」

1124 先・マナカ 「せつかく種子島からとんぼ帰りしてきたのよ。でも、わたしの勘は当たつて

1125 たでしょ。オト、乗せて！」

1126 先・マナカ 「いつたいどこに向かっていくのでしょうか。これから局の衛星回線も使つて

1127 追跡したいと思います！」

1128 ホンマ 「さあ、おれたちもジェットへりで追つかけよう」

1129 先・マナカ 「了解ツ」

1130

1131 急発進する中継車

1132

1133 ○シーン33 立川基地・指令室

1134 テレビモニターを見ながらスナックを食べるニシジマ

1135

ニシジマ 「イヒヒ。都市伝説ですつて」

1136 コヅカ 「かまわん。国民に説明する手間が省けん」

1137 ジュリー 「我が国なら、もつとメディアの危機管理を徹底していることでしょう」

1138 コヅカ 「記者会見用のスーツでも新調しておくことですね。本部長は世界の顔になる」

1139 ニシジマ 「ヴィトンの似合う国际人ランギング上位に食い込みますよ、きっと。ボクは白衣がいいでしょうね。博士っぽくいかないと」

1140

1141 1142 ロイスの独房

1143 ○シーン34 ロイスの独房

1144 壁のモニターから指令室の状況が聴こえる

1145 ソファーに座りニンマリしているロイス

1146

1147 ロイス 「フフ。感じるぞ。悪意に満ちた怨念『おんねん』の波動を」

1148 オペC 「小笠原ホールが収縮をはじめたようです」

1149 オペA 「巨人が本州に向かって直進中。移動速度はマツハ二・五」

1150 ニシジマ 「今度はブルーか」

1151 コヅカ 「このまま行くとエデンと巨人は八丈島沖でコントクトします。予想時刻はマル

1152 オペD 「ゴーゴーマル」

1153 ニシジマ 「まかさ昨日の仕返しとか、そんな単純なわけない、かな？」

1154 コヅカ 「念のため東京、神奈川、千葉、埼玉の都県全域に避難勧告。環状十号線の防災

1155 フェンスを開設するよう国交省『こつこうしょう』に連絡しろ」

1156 オペB 「こちら立川基地。国交省にケース・ダブルエックスの発令を要請します。繰り

1157 1158 返す、こちら立川基地。国交省に」

1159

1160 ノエディが予想よりも早く再攻撃をしてきたことに、ほくそえむロイス

1161

1162 ロイス 「フフ。なかなかやるじやないか、ブルハトウめ。そろそろ心の準備が必要かも

1163 な。フフフ」

1164

1165 ○シーン35 ノエディの操縦席

1166 飛行するノエディの操縦席で、決意みなぎるボグライ

1167

1168 ボグライ「ダマスのコンバータは調子が良いようだ。ソードのパワーも上昇している。ギ

1169 ガンドールとの接触が楽しみだが、その姿を拝めるのも、わずか数バリュマーに過ぎ

1170 ないだろう。楽しみだ」

1171

1172 ○シーン36 エデンで移動するキタヤマヒミナツ

1173 マツハ1・5で飛行するエデン

1174

- 1175 オペ A 「巨人とのコンタクトまで六〇秒」
- 1176 オペ D 「エデンと巨人の高度、一万五千メートル。ほぼ同一線上です」
- 1177 ジュリー 「T C A S・6 (ていきやす・しつくす) の性能を信じるしかないですね」
- 1178 キタヤマ 「良い感じで飛べてるけど気分はどう?」
- 1179 ミナミ 「いいハズありません」
- 1180 キタヤマ 「それでもちゃんと動くってのがすごいね。エデン様は(笑) ホントはやる気満々じゃないの?」
- 1181 ミナミ 「そんなわけありません」
- 1182 コヅカ 「もうエデンのレーダーにも反応しているはずだ。緊張感を持つて行けよ」
- 1183 キタヤマ 「むこうはマツハ三で飛んでくるんですよ。相対速度いくつになると思つてるんですけど、大臣」
- 1184 ニシジマ 「たしかに一瞬すぎるね」
- 1185 オペ A 「巨人、急減速!」
- 1186 オペ A 「巨人、急減速!」
- 1187 オペ A 「巨人、急減速!」
- 1188 エデンの目の前、三百m手前の空中で停止して仁王立ちになる巨人
- 1189 キタヤマ 「おいでなさい! 右三〇度に旋回!」
- 1190 ミナミ 「は、はい!」
- 1191 キタヤマ 「おいでなさい! 右三〇度に旋回!」
- 1192 ミナミ 「は、はい!」
- 1193 キタヤマ 「巨人の右側をすり抜けるエデン。エデンを狙うように向きを変える巨人
- 1194 オペ B 「巨人との距離、三百メートル」
- 1195 キタヤマ 「ギリ、セーフって感じ! 危なかつたな」
- 1196 オペ C 「ギリ、セーフって感じ! 危なかつたな」
- 1197 キタヤマ 「あんな急減速を:イナーシャル・キャンセラーは、ブルハトウの方が上を行つてることか」
- 1198 ニシジマ 「エデン操縦席内での加重制御、有効です」
- 1199 ミナミ 「速度を下げ過ぎると光線を照射されるぞ」
- 1200 オペ D 「エデン操縦席内での加重制御、有効です」
- 1201 コヅカ 「速度を下げ過ぎると光線を照射されるぞ」
- 1202 キタヤマ 「わかつてますつて」
- 1203 オペ A 「巨人がエデンを追従『ついじゅう』しています」
- 1204 ニシジマ 「あの光線の射程距離はもつとあるはずなのに、どうして近づく必要があるんだ」
- 1205 ミナミ 「一キロ以上離れるなんて無理です!」
- 1206 ボグライ 「フフ。ハハハハハ。ギガンドールめ。逃げ回るだけか? だが、そうはいかん」
- 1207 ミナミ 「ちよ、ちよつと、近すぎます!」
- 1208 キタヤマ 「離れよう。バックオーライ!」
- 1209 オペ C 「巨人の腕にエネルギーが集中していきます」
- 1210 コヅカ 「巨人の腕にエネルギーが集中していきます」
- 1211 ミナミ 「光線を撃つ気だぞ」
- 1212 オペ C 「え? つと、キヤノン砲、一発目、準備します!」
- 1213 ボグライ 「巨人の腕に集まる粒子の反応が昨日とは違うようです」
- 1214 あ、真つ二つにしてくれる! キタヤマ 「まあ、不甲斐ない相手でも、倒せばガナミア様がお喜びになる」とだらう。や
- 1215 「シールドを構えて」
- 1216 ミナミ 「そんなこと言つても」
- 1217 ニシジマ 「そうか。光線じゃない。サーベルにして使うつもりなんだ」
- 1218 ボグライ 「では、さらばだ。ギガンドール!」
- 1219 キタヤマ 「巨人の両腕から光の剣が出て、振りかざす
- 1220 エデンが右手のキヤノン砲を撃つ
- 1221 ミナミ 「お笑いだな」
- 1222 ボグライ 「お笑いだな」
- 1223 ミナミ 「キヤノン砲、撃ちます!」
- 1224 ハーベンが右手のキヤノン砲を撃つ
- 1225 ハーベンが右手のキヤノン砲を撃つ
- 1226 ボグライ 「お笑いだな」
- 1227 ハーベンが右手のキヤノン砲を撃つ
- 1228 ボグライ 「お笑いだな」
- 1229 交わす巨人
- 1230 交わす巨人

- 1231 キタヤマ 「かすつただけか！」
 1232 コヅカ 「昨日よりも動きが早いのか！」
 1233 オペC 「RFキヤノン、海面に着弾。潮流《ちようりゅう》に異常なし」
 1234 オペB 「御蔵島《みくらじま》方向から接近する機体があります」
 1235 オペB 「照合しました。ニチアサテレビがチャータードしたジエット／リです」
 1236 ジュリー 「戦闘に巻き込まれます」
 1237 コヅカ 「すぐに引き返せろ」
 1238 キタヤマ 「そんなのまで面倒見てる暇ないですよ！」
 1239 オペB 「ヘリがRFキヤノンの有効射程距離圏内に入りました」
 1240 ニシジマ 「ほらほら、どうした。ギガンドール」
 1241 ボグライ 「巨乳ちゃん、撃つて！」
 1242 キタヤマ 「ダメです！ 外したらテレビ局さんに」
 1243 ミナミ 「そんな事言ってたらこっちがやられる」
 1244 キタヤマ 「そんな事言ってたらこっちがやられる」
 1245 1246 ○シーン37 ヘリからの中継
 1247 マナカたちの乗るヘリからもエデンと巨人の姿が見える
 1248 マナカはシートベルトを外して扉を開けて、裸眼で見たい欲求を抑えて実況
 1249 先・マナカ「今、八丈島の東、約二三〇キロの海上です。」
 1250 「覗ください。立川から飛び立つた巨大ロボットが、そのまた倍近い大きさの…なんと形容すれば良いのでしょうか。遺跡から発掘される土偶のようなボディに三脚がついたような不可思議な形状の青い物体と戦闘中のようです。立川のロボットが日本のものだとすれば、青い三脚はどこか敵国の兵器なのでしょうか」
 1251 1252 1253 1254 1255 1256 1257 1258 1259 1260 1261 1262 1263 1264 1265 1266 1267 1268 1269 1270 1271 1272 1273 1274 1275 1276 1277 1278 1279 1280 1281 1282 1283 1284 1285 1286
 ボグライ 「戦意喪失《せんいそうしつ》とは片腹痛《かたはらいた》」
 ニシジマ 「巨人の狙いはなんだ」
 コヅカ 「見ればわかる」
 ジュリー 「作戦を伝えるのがこちらの責務ではないのですか？」
 コヅカ 「名案があるなら、今すぐ提示してください」
 キタヤマ 「狙いがオレたちなら考えがある」
 ニシジマ 「どうするつもりだ？」
 ボグライ 「ほらほら、どうした！」
 ミナミ 「わたし、もうダメです！」
 キタヤマ 「オレは鋼《はがね》のラガーマンですよ。でかい相手でも足下《あしもと》にタックルすれば倒せるつてのが王道です」
 ミナミ 「ラグビーなんてテレビでみたことくらいしかありません！」
 キタヤマ 「それで充分！ イメージ、イメージ！」
 ニシジマ 「どうか。巨人は逆さで現れて反転した。つまり、横倒しでは何か不都合が生じる可能性がある」
 コヅカ 「よし、決める。ミナミへん」
 ミナミ 「無理です！」
 コヅカ 「無理でもやれ！」
 ○シーン39 マナカたちのヘリが戦場に
 ヘリで戦場にうに突入するマナカたちのジェットヘリ
 中でどこまでエデンたちに接近するのか揉めている
 先・マナカ「立川のロボットが青い三脚に押されています！ 青い三脚がわたしたちの敵になるのでしょうか！」
 ホンマ 「目の前で起きている事実を伝えるのがジャーナリストでしょ！」

1287 ヘリ操縦士（　　）「個人的には非常に興味のある現場ですが、社の方からも撤収命令が
1288 来たんで引き返します。頂いた料金は返金しますんで…」
1289 先・マナカ「ちよつと！」

1290 1291 1292 1293 1294 1295 1296 1297 1298 1299 1300 1301 1302 1303 1304 1305 1306 1307 1308 1309 1310 1311 1312 1313 1314 1315 1316 1317 1318 1319 1320 1321 1322 1323 1324 1325 1326 1327 1328 1329 1330 1331 1332 1333 1334 1335 1336 1337 1338 1339 1340 1341 1342

○ 旋回するショットヘリ

○ シーン40 ヘデンはヘリが邪魔で戦えない
ジエットヘリが八百メートルくらいまで接近してきて「轟う／＼」
攻めるボグライはソードを振り回す。間際で避けられるヘデンはキタヤマのおかげ
だがミナミの操作感覚は研ぎ澄まされている

ボグライ 「ほら！ ほら！ ほら！ ほら！ ほらシ…」
ミナミ 「キタヤマさん、もうダメです！」
キタヤマ 「まだホイッスルは鳴ってない。もつともノーサイドなんてまっぴらだけどね…」
オペD 「ヘデンのエンジン出力が徐々に上がっています」
ニシジマ 「防戦一方とはいえ、物凄い動きだ」
コヅカ 「だがこのままでは意味がない」
ロイズ 「フフ。そんなことはないさ」
キタヤマ 「巨人の足に突っ込めばいいんだよ！」
ミナミ 「そんなこと言われても」
ボグライ 「ほお。なるほど。あの小さな機械のせいといふわけか。ならば…」
オペA 「巨人の旋回パターンが変わりました」
ニシジマ 「いかん！ ヘリを狙う気だ」
ジユリー 「なぜ？」
ニシジマ 「巨人に訊いてください」
先・マナカ 「青い三脚が、急にこちらに向かってきます！」
ミナミ 「あ、テレビ局さんが…」
ミナミはとっさにヘリをかばおうとヘデンを移動させる

ボグライ 「思つたとおり過ぎて、たまらぬな」
キタヤマ 「背中を向けちゃだめだ！」
ミナミ 「え？」
ボグライ 「いただく！」
ボグライ 「いただく！」
ミナミ 「マズイぞ！」
ミナミは両腕のソードを一本束ねてヘデンの背後から斬る

ヘデンの腰に食い込んでいく巨人のソード。ヘデンの操縦席にも震動が伝わる

キタヤマ 「ダメか！」
ミナミ 「いや――――――」
オペD 「ヘデン、腰椎《ようつい》部分で分断！ もれました…」
オペA 「ヘデンの落下コースをトレース」
オペC 「やつてます！」
先・マナカ 「立川のロボットがやられました」
オペD 「ヘデンのエンジン出力低下。千、五百、二千、五十ルースト」
コヅカ 「予備動力に切り替えろ」
オペD 「エラーコード・ハチマルゴ発生」
ニシジマ 「十二系統も冗長《じょうちょう》構成にしたのに…」
コヅカ 「なんてことだ」
○ シーン41 勝ち誇るボグライ
巨人の動きを止めて、ほこらしげなボグライ

- 1343 ボグライ 「はは。はは。ははははは。脆《もろ》い。脆すがるぞ。簡単に片付かず
- 1344 「きたが、これも我々の正義の証《あかし》だ。」覗いただけましたか。ガナミア様」
- 1345 ガナミア 「つまらぬイクサだったが、浄化の道すがらには良くある」とだ」
- 1346 1347 ○シーン42 ミナミたちを救助する
- 1348 1349 巨人が撤退する
- 1350 オペA 「巨人が移動します」
- 1351 オペC 「小笠原ホールが出現」
- 1352 コヅカ 「見切りをつけたといふ」とか
- 1353 ジュリー 「それよりミナミさんたちは！」
- 1354 コヅカ 「ファイルターのない状態でこのまま海面に落下したら」
- 1355 1356 ハデン下腹部の操縦席のすぐ上を巨人のソードで斬られたキタヤマは頭部から出血
- 1357 苦しそうに通信してくる。ミナミは呻くだけ
- 1358 1359 キタヤマ 「博士。いつだつたか、パラシユートを付け過ぎだつて言つたの謝りますよ」
- 1360 ニシジマ 「キタヤマくん、生きていたのか！」
- 1361 キタヤマ 「勝手に殺さんでくださいよ」
- 1362 コヅカ 「ミナミくんは？」
- 1363 ミナミ 「ううう…」
- 1364 オペA 「ダイバーA《えー》のサチュレーション※動脈血酸素飽和度※、百%」
- 1365 ニシジマ 「新しい操縦席のシェルは渾身の補強をしてあるからね」
- 1366 オペD 「パラシユートは九基すべてが正常です。七秒後に展開します」
- 1367 コヅカ 「よし。あのジェットヘリに救助せらる！」
- 1368 ジュリー 「民間機ですよ！」
- 1369 コヅカ 「最大のピンチにどのプライオリティーを規範にしたのかは歴史が証明してくれ
- 1370 ジュリー 「ハデンも回収しないと」
- 1371 ニシジマ 「硫黄島《いおうとう》のメンテナンス・タンカーを現場に急行せらる。パーツ
- 1372 コヅカ 「すべて回収するよう」
- 1373 1374 ○シーン43 ヘリの中
- 1375 ニチアサテレビがチャーターしたジェットヘリの中
- 1376 1377 震えているミナミは毛布にくるまつている
- 1378 それを信じられないという目で見るマナカ
- 1379 1380 先・マナカ 「本当に、この子があのロボットを…」
- 1381 ミナミ 「……」
- 1382 1383 キタヤマは頭から血を流しているが、タオルで応急的に止血されている
- 1384 かなり重症で息が上がつていてがそこは強がりで
- 1385 1386 キタヤマ 「オレのおかげがあつてこそつての、忘れないでよ…」
- 1387 先・マナカ 「あなたは…たしか三年前のラグビー日本代表。ポジションはウイングの」
- 1388 キタヤマ 「ですが、オレって有名人…」
- 1389 1390 コヅカからの無線が入る
- 1391 1392 コヅカ 「いいか。これは国家機密の中でもトップクラスだ。署名捺印なしで守秘義務を
- 1393 ホンマ 「負つたと思つてもらう」
- 1394 ホンマ 「だそだ」
- 1395 先・マナカ 「これはちよつと衝撃的ですものね」
- 1396 ヘリ操縦士 「まさか仕事で横須賀基地に入れるとは思つてもみませんでしたよ」
- 1397 コヅカ 「ともかく可能な限り最速で飛行してくれ。許可是すべてこちらでとる」
- 1398 ミナミ 「…ダメだよ。無理だよ。わたしなんかが乗つていたから負けたんだよ。きつ

1399
1400 と他にちゃんとした強い人がいるんだよ。わたしじゃダメなんだよ…」

○シーン44 エピソード2エンディング
E.U.主題歌 1分30秒

次回予告用 B G M

ニシジマ「もうボクの理解できるレベルを超えてますね。これは技術や理論ではなく一番嫌いな根性の世界。上下に分断されたエデンでもう一度戦いを挑もうつてんだから。

ロイスもロイスだけど、ジユリエット本部長も賛成するとは思いもしないコヅカ大臣と一緒に、結局はメンツが大事つてことなんですかねえ！」

シリリー「わたしは世界を救いたいたけです」
ニシジマ「でも、それにはミナミくんが協力してくれないと…」
「次回、沼鬼兵がレヴァイアイン、エドノ・ダイビー」。エドノ・ダイビー・ス

【次回】起業努力ハウスハイツ ニュン・タバコ
【翌日】ニビン一日、不
ちよう作戦』
ミナミ 「わたし、絶対こ乗りますんから!」

○シーン45 エピソード3アバンタイトル

昭和記念公園ゲート付近に停車した中継車の前に立つマナカ
数百人以上の人間でごつたがえしている

「とにかく、どーなつてんだ！ 秘密兵器の開発反対！ 異次元人って本当は何者なんだ！ とか、国や国連、自衛隊、防衛省にクレームの嵐」

知った人々や複数の市民団体などが詰め寄り、一時騒然となる場面もありましたが、コヅカ防衛大臣が直接現れ、事態を収束させました。国連がアドレマイズ事件の際の技術を活用して開発した巨大「コボン」、『ニゾン』の存在が用ひてとなり、それが戦争

技術を応用して開発した目力ロボット『エデン』の存在が明らかになり、それが我が国の防衛相の管轄になつてゐる状況から、わたしたちには想像もできない事態が迫つてゐることを知つてしまひました。未知なる異次元人ブレットウに對して、いつに

どのような対策が発表されるのか、午後一時からの総理のコメントに注目したいと重
いります

○シーン46 オープニング

「アドレマイズの混沌が、人類の歴史に爪痕を残した惨事から、すでに十数年が経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯えなければならなかつたのだ。果たして救

「世主はどうにいるのか。それは誰にも答えることができなかつた……」

主題歌 ver3 0 ワンエーテス
アイキヤツチ 1分30秒

「エピソード・スリー ふしちょう作戦」

○シーン47 前回のあらすじ
「小笠原ホールから出現したブルハトウの操る巨人との戦闘で損傷したエデン。

その存在は、日本《につぽん》国民ならず世界中に知れ渡つてしまふ。そして、幸いにして無傷で救出されたものの、ダイバーに登録されて力を発揮できなかつたミナミ

は激しい自己嫌悪にさいなまれていた

○シーン48 エデン家・居間
ソラはミナミのことが心配でそわそわしている
■時

ソラ 「まったく、ミナミはなんで連絡よこさないかな。もう二日も経つのよ。電話もつぶさはない。あんまりジエ・マーリエ・コートの夫、方を教えそつてのこー

ソラの携帯がなる。表示は非通知
へががれがいじ
あれいとこ
シニシミ
ノの便レフを尋ンナ
「のい」

「ミナミ！ 非通知？ でもここは出るべきよね」

- 1455 携帯に出るソラ
- 1456 ソラ 「もし？」
- 1457 ソラ 「エダ・ソラさんですね」
- 1458 ソラ 「どちら様ですか？」
- 1459 ソラ 「国立・特別感染病・管理センターのタチバナと申します」
- 1460 ソラ 「かんせんびょう、かんりせんたー、ですか？」
- 1461 ソラ 「保護つて：ミナミは元気なんですか？」
- 1462 ソラ 「保護つて：ミナミは元気なんですか？」
- 1463 ソラ 「要点だけお話ししよう。妹のミナミさんが国際指定のウイルスに感染して
- 1464 ソラ いる事が判明しました」
- 1465 ソラ 「ウイルス？」
- 1466 ソラ 「はい。致死率は高くはありませんが、乳幼児の場合に限って様々な後遺症を残すため、わたくしでも保護させていただきました」
- 1467 ソラ 「『（国立特別感染病管理センター、たしかにあるわね。でも住所が非公開になつてます。録音しなきや）』
- 1468 ソラ 「『（国立特別感染病管理センター、たしかにあるわね。でも住所が非公開になつてます。録音しなきや）』
- 1469 ソラ 「『（安心ください。妹さんは至つて元気です。ですが状況だけに面会は）』遠慮い
- 1470 ソラ ただきます」
- 1471 ソラ 「そんな：（これつて新手の詐欺かも。検索してみるか）場所は、どこなんですか？」
- 1472 ソラ 「そんな：（これつて新手の詐欺かも。検索してみるか）場所は、どこなんですか？」
- 1473 ソラ す？」
- 1474 ソラは携帯を頭と肩で挟んでノートパソコンで検索する
- 1475 ソラは携帯を頭と肩で挟んでノートパソコンで検索する
- 1476 電話の男 「誠に恐縮ですがお教えできません」
- 1477 電話の男 「（国立特別感染病管理センター、たしかにあるわね。でも住所が非公開になつてます。録音しなきや）」
- 1478 電話の男 「（安心ください。妹さんは至つて元気です。ですが状況だけに面会は）遠慮い
- 1479 ソラ ただきます」
- 1480 ソラは携帯の通話録音スイッチを押す
- 1481 ソラ 「いつになつたら返してくれるんですか？」
- 1482 ソラ 「体内での潜伏期間は半年ほどです。その後の検査で——」
- 1483 ソラ 「半年も？ それまで連絡とれないなんて、おかしくないですか？」
- 1484 ソラ 「すみません。規則なものですから」
- 1485 ソラ 「規則って」
- 1486 ソラ 「電話やメールも禁止されています。その分、生活環境には充実を期しております」
- 1487 ソラ 「ちよつと、そんな大事な内容、この電話一本で済ますわけ？」
- 1488 ソラ 「すみません。緊急を要するので」
- 1489 ソラ 「それにしたつて」
- 1490 ソラ 「それ以上です。必要があれば、こちらから連絡を差し上げます。それでは失礼します」
- 1491 ソラ 「電話の男」
- 1492 ソラ 「電話の男」
- 1493 ソラ 「電話の男」
- 1494 ソラ 「電話がきれ」
- 1495 ソラ 「ちよつと。こういうのってあります？」
- 1496 ソラ 「ちよつと。こういうのってあります？」
- 1497 ソラ 「ちよつと。こういうのってあります？」
- 1498 ソラ 「ちよつと。こういうのってあります？」
- 1499 ○シーン49 立川基地・コヅカの執務室
- 1500 イスに座り机に向かうコヅカ。サンドイッチを食べている
- 1501 その前に置かれた応接セット。ソファに座るニシジマはカレーを食べている
- 1502 ジュリエットは紅茶のみ
- 1503 コヅカ 「まつたく、横須賀はどんな警備をしているのだ」
- 1504 ニシジマ 「米軍基地から抜け出すなんて、なかなかやりますな」
- 1505 ジュリエット 「でも、ミナミさんなしではエデンを動かせませんよ」
- 1506 ニシジマ 「ロイスの話では、今エデンを起動するには、二人のダイバーが揃つてないと
- 1507 イケないってことですが、キタヤマくんがあの怪我じやあ確かめようもない。もつと
- 1508 も、上下に分断されたままではねえ」
- 1509 コヅカ 「いつもこいつも肝心なときに役に立たん。税金の無駄遣いだと言われるわた
- 1510

- 1511 しの身にもなつてもらいたい」
- 1512 ニシジマ「で、ミナミくんの捜査。神奈川県警はなんだつて拒否したんですか？」
- 1513 コヅカ「ブルハトウに関わる者は、第七特殊被疑者扱いで、警視庁管轄からは除外する
- 1514 んだそうだ」
- 1515 ニシジマ「君子危うきに近寄らず、ってことですか。この場合は君子ってのは適切じやな
- 1516 いか」
- 1517 ジュリー「ミスター・コヅカのポジションなら、その方が都合が良いのではないですか？」
- 1518 1520 コヅカはオレンジジュースを一気に飲み干すと、
- 1519 1521 コヅカ「自衛隊員を人探しに回せるほど器用な組織にはなつておらん」
- 1522 ニシジマ「ようするに人手の問題です。日本にはアメリカのような秘密警察は存在しない
- 1523 んですよ。警察官僚出身大臣の立場がないですが」
- 1524 コヅカ「(撫然として) ふツ」
- 1525 1526 ジュリエット、ティーカップを机に置く
- 1527 1528 ジュリー「我が国に、そんなものはありません」
- 1529 ニシジマ「N S B 『えぬ・えす・びー』があるじゃないですか? 充分に秘密組織ですよ、
- 1530 あれは」
- 1531 ジュリー「ゴシップサイトの観過ぎには要注意です」
- 1532 ニシジマ「あれはボクの活力源なんです」
- 1533 コヅカ「ともかく、ミナミくんの捜索はわたしの方でなんとかする。博士はロイスと協
- 1534 力してエデンの復旧を急いでくれ」
- 1535 ニシジマ「あんな状態で、まだ戦おうっていうんですか?」
- 1536 ジュリー「エデンの下半身は、元々、両腰についたバインダーにエネルギーを送るために、
- 1537 一度、大腿部『だいたいぶ』のバッテリーに蓄えてから出力する設計でした」
- 1538 ニシジマ「そんなの知つてますよ。なんだつて、あんな設計にしたのか。M I Tの天才の
- 1539 1540 ジュリー「で、操縦席が二つできたことが幸いして、どうやら、上下別々に運用する」
1541 「ができますよ」
- 1542 ニシジマ「ちよつと待つてください。上下別々で。いくらなんでも、そんなのはボクで
- 1543 も容認できませんよ」
- 1544 ジュリー「上下に分断された状態ではエンジンの出力が半減、いや、もつと下がつてしま
- 1545 う確率が高いでしょう。それでもわたくしたちは勝たねばいけないので」
- 1546 コヅカ「上下に別れていても、それぞれがR Fキヤノンを撃てる。やつらに対抗できる
- 1547 のはエデンのみなのだ。満身創痍であつても使わぬわけにはいかんだろ」
- 1548 ニシジマ「まあ、そうですけど。こういうとき、ゲームだつたら隠しコマンドで『必殺技!』
- 1549 』とか出来ちやうんだけど、現実は厳しい……」
- 1550 1551 ○シーン50 横浜市・横須賀地区 某所の小さな公園
- 1552 蝉が鳴いている住宅地にある小さな公園で雑談をしている主婦たち
- 1553 1554 主婦 A () 小笠原の青い三脚つてのが、ブルなんとかって悪の組織のロボットつて
- 1555 ことなんでしょ?」
- 1556 主婦 B () 「ブルハトウよ。で、昭和記念公園の地下で作つてた日本の秘密ロボット
- 1557 がエデン」
- 1558 主婦 C () 「違うでしょ。エデンを作つたのは国連の危機管理センターで、日本は小
- 1559 笠原にホールが出来てるつてことで、その運用権を譲つてもらつたのよ」
- 1560 主婦 B () 「うちのユウくんの会社なんて、非常事態だからって、本社の仕事は大阪
- 1561 でやるんですって」
- 1562 主婦 C () 「当然よね。今じゃ東京は危険だわ。なんたつてエデンの基地があるんだ
- 1563 から」
- 1564 主婦 A () 「じゃ、横須賀だって同じでしょ。日曜のお祭りの準備とかしてて、ホン
- 1565 トに大丈夫なのかしら」

1567 主婦Aの子供3歳が主婦たちのところに駆け寄つてくる

1568 子どもA（）「ママあ、お腹空いたあ～」

1569 主婦B（）「あら、ショウタロウくん。今日は素敵なTシャツ着てるわねえ」

1570 主婦A（）「最近このロボットの柄ばかり欲しがるのよ。趣味悪い。旦那に似たの

1571 1572 1573 1574 1575 1576 1577 1578 1579 1580 1581 1582 1583 1584 1585 1586 1587 1588 1589 1590 1591 1592 1593 1594 1595 1596 1597 1598 1599 1600 1601 1602 1603 1604 1605 1606 1607 1608 1609 1610 1611 1612 1613 1614 1615 1616 1617 1618 1619 1620 1621 1622

「最近このロボットの柄ばかり欲しがるのよ。趣味悪い。旦那に似たの
かしら」
「いやいや、良い選球眼してるわよ。これ、アドレマイズ事件で活躍した
ガルヴァイドつてデモンドールよ」
「あら、そうなの？」
「ノリコさん、なんにもしらないねえ」
「カズミさんの料理の知識には負けるわよねえ」
「グサツときたわ…」

主婦C（）「主婦A（）「あら、そうなの？」
主婦B（）「ノリコさん、なんにもしらないねえ」
主婦C（）「カズミさんの料理の知識には負けるわよねえ」
主婦C（）「グサツときたわ…」

○シーン51 横浜市・横須賀地区 公園わき

ミナミ、公園の水道で水を飲む

ミナミ「ぱは～。スマホ持つて来ればお買いものできたのに：そこまで気が回らなかつたよ。…もう少し歩こう。たぶん、まだそんなに遠くには離れてないはず。きっと怖いオジサンたちが連れ戻しにくるんだよ。わたしじゃダメなんだ。だから逃げなきや…でも、お腹すいたなあ…」

1583 雑談する主婦たちの会話が聴こえているが耳に入らない。お腹が鳴る

ミナミ「ぱは～。スマホ持つて来ればお買いものできたのに：そこまで気が回らなかつたよ。…もう少し歩こう。たぶん、まだそんなに遠くには離れてないはず。きっと怖いオジサンたちが連れ戻しにくるんだよ。わたしじゃダメなんだ。だから逃げなきや…でも、お腹すいたなあ…」

○シーン52 立川基地・医療センター

ベッドに横になっているキタヤマは様子を見に来た看護士にちよつかいを出す

看護士（）「キタヤマさん。お気分はどうですか？」

キタヤマ「最高です。看護士さんがデートの約束してくれたら、もつと最高かも」

看護士（）「あいにく、…」ではそういうサービスやつてないんですよ」

キタヤマ「冷たいなあ～」

看護士（）「まだ腫《は》れがひかないですね。減圧症《げんあつしょう》にはなつ

てないハズなのに」

キタヤマ「RFL《あーる・えふ・える》のせいでもクミが長引くって先生は言つてたけ

ど、もつと良い治療法があるって知つてる？」

看護士（）「白衣の天使は、そう簡単にキスしたりしないって、…」存じでした？」

キタヤマ「え？ ホント？ あれえ～、おかしいなあ～」

看護士（）「そんなことより、相方さん。早く見つかると良いですね」

キタヤマ「あ～、それなら心配ないさ」

看護士（）「あら。どうしてですか？」

キタヤマ「当たり前でしょ。あい～、オレに惚れてるんだから」

看護士（）「…先生に言つて、あなたに効くお薬、追加していただきます」

呆れてカーテンを閉める看護士

○シーン53 マリアナ海溝・底 ブルハトウ基地

玉座に腰を下ろしたガナミアは、腕をくみ、足もくみ、満足げ

エデンが分断される映像を繰り返し見ているのだ。その前にかしづくボグライ

ガナミア「もういちど見せろ」

ボグライ「もう五〇回目ですが、ガナミア様」

ガナミア「ギガンドールが落ちていく様は、何度見ても愉快ではないか」

ボグライ「たしかに」

ガナミア「もうこれであのギガンドールも現れないだろう。さすれば、ノエディーに我々

が乗り込み、浄化の進み具合をこの皮膚で確認するというのも、ひとつの楽しみでは

と思うのだが、どうだ、ボグライ」

ボグライ「ノエディーに我々が乗つてしましますと、ダマスが不足する恐れがあらうかと」

ガナミア「ふツ！ 気に入らん。…」の惑星には、およそ不必要な元素が多すぎるので」

- 1623 最も浄化に不適切な世界。…アドレマイズのようにはいかんといふとか」
- 1624 ボグライ 「そこを浄化するよう総督に命じられたガナミア様は、ツノが長くなるかと」
- 1625 ガナミア 「あつはつはつはつは。よくわかつておるではないか、ボグライ」
- 1626 ボグライ 「ははあ」
- 1627 ガナミア 「よし。ノエディーで出る」
- 1628 ボグライ 「いや、しかし…」
- 1629 ガナミア 「この世界が浄化される前の景色を知つていれば、その後の喜びも更に大きくな
- 1630 ろうというもの。すぐに出陣の儀を執り行う。お前は留守番だ」
- 1631 ボグライ 「は、ははあ」
- 1632 ガナミア・ボグライ 「すべては浄化のために！」
- 1633
- 1634 ○シーン54 立川基地・エデン格納庫
- 1635 格納庫に吊り下げられたエデンの上半身と下半身
- 1636 ニシジマはその修復に頭を抱えている。インカムでオペレータと連絡をとっていると、
- 1637 そこにやってくるジュリエット
- 1638
- 1639 ニシジマ 「じや、次。十番回路を接続してください」
- 1640 オペA 「ルーフケイズ結界エンジン、ドライバー・ナンバーーン、コネクト」
- 1641 1642 うねりを上げるエデンの背中と腰部についたエンジン
- 1643
- 1644 オペD 「エデン・ワンの出力、七百から八五〇ルーストに上昇。ツーの出力、三百のま
- 1645 まで」
- 1646 ニシジマ 「うーん。ワンとツーに別れたままじや、バッテリー駆動のツーには不利つて」
- 1647 「とか。恼ましい」
- 1648 ジュリー 「あまり好ましい状況ではなさそうですね」
- 1649 ニシジマ 「あ、本部長。ロイスは何か言つてましたか？」
- 1650 ジュリー 「ドクターと話をしたいと言つています」
- 1651
- 1652 ジュリーはA4サイズくらいのタブレット端末をニシジマに見せる。画面にロイス
- 1653
- 1654 ニシジマ 「それは珍しい。またキテレツな妙案でも授《さず》けてくれるのかな？」
- 1655 ロイス 「君には朗報だと思うがね」
- 1656 ニシジマ 「ほお。興味津々だけど、次はブルハトウには絶対必勝の作戦が必要なんだつて
- 1657 こと、分かつての話だろうね」
- 1658 ロイス 「上半身と下半身。エデン・ワン、ツーと呼ぶのかな？」
- 1659 ニシジマ 「二機で運用しようつてのに、正式に上半身と下半身つて呼ぶなんて、役所の連
- 1660 中のセンスの悪さは何世紀も進歩してないって思つたから進言したんだよ」
- 1661 ロイス 「それを、合体させる方法がある」
- 1662 ニシジマ 「合体…燃えるキーワードを持つてきたね。しかし眉唾《まゆづば》だ。いつ、
- 1663 どこで、どんなふうに、だれが、どれくらいの力があれば良いのか。そして、なぜそ
- 1664 れができるのか。論理的に説明してよ」
- 1665 ロイス 「簡単に言えば、前回はミナミの勇気が足りなかつたのだ」
- 1666 ニシジマ 「勇気？ 切り札が根性だなんてボクは認めないよ。それにミナミくんのような
- 1667 一高校生にまで、未知の敵と戦つて勝利できるほどの高潔な精神が人類に浸透してい
- 1668 るなら、地球上のあらゆる困難はとつくに解決されてる」
- 1669 ロイス 「だからこそ、デモンコアがあるのだ」
- 1670
- 1671 *** 収録中断箇所 ***
- 1672
- 1673 ニシジマ 「そうきたか。かねがね気になつていたんだけど、この際だから訊かせてもらお
- 1674 うじやないか。十三年前、アドレマイズ事件のときにズーラが持つっていたデモンコア
- 1675 はマーシャラ皇国が奪取した。そして不可逆召喚《ふかぎやくしようかん》という不
- 1676 可思議な術《じゅつ》を使って全ての召喚ホールを閉鎖。そうすることで異世界間の
- 1677 往來《おうらい》を防ごうという意図があつたと聞いている。にもかかわらず、ブル
- 1678 ハトウが現れた。まあ、これは異次元のヤツらのトンデモ科学の仕業なのだから百歩

- 1679 譲って良しとしよう。だが、ロイス。君は自称アドレマイズ人《じん》だ。デモンコアをどうやって手に入れて、どのようにして異世界を行き来しているんだ？そもそも、なぜ？　だいたいデモンコアってなんなんだ？」
- 1680 1681 1682 1683 1684 1685 1686 1687 1688 1689 1690 1691 1692 1693 1694 1695 1696 1697 1698 1699 1700 1701 1702 1703 1704 1705 1706 1707 1708 1709 1710 1711 1712 1713 1714 1715 1716 1717 1718 1719 1720 1721 1722 1723 1724 1725 1726 1727 1728 1729 1730 1731 1732 1733
- ロイス 「そう興奮するな。当時の連合艦隊の記録にも残っているだろう？　君たちはエデンを製造するために、アドレマイズ人が残した対デモンドール用特殊弾頭ミサイルの設計図をもとにして疑似《ぎじ》デモンコアを作り出せたのだから、おのずとその正体も解明されるだろう」
- ニシジマ 「いま知りたいんだよ」
- ロイス 「デモンコアとは『生命を映し出す鏡』。そこに良き心を向い合せれば、世界の混沌から解脱できる』。そういうものだ」
- ニシジマ 「メーナ皇女《おうじよ》の言葉そのままじゃないか。それでボクたち科学者は納得できないどころか、余計に混乱してるんだよ」
- ジヨリィ 「その『良き心』が、ミナミさんにある、ということですか？」
- ロイス 「ダイバーとして選ばれたのだ。そういうことだろう」
- ニシジマ 「では彼女が逃げ出したのは、デモンコアも筋書きを間違えたってことなのか？」
- ロイス 「どの世界でも、学者というものは計算できる未来しか信じようとしない傾向があるようだ。それでも、君はましな方だと思っていたがな」
- ニシジマ 「どういう意味だ」
- ロイス 「わたしたちはまだ負けたと決まったわけではない。ゆえに、分断されたエデンを合体させる。ただし、そのチャンスは一度だけだ」
- ジヨリィ 「それはいつです？」
- ロイス 「巨人の放つ光線を利用する」
- ニシジマ 「なるほど！　あの光線を触媒にして、エデン・ワンとツーのエンジン出力を引き上げる。その勢いでワンとツーの回線を連結させようつて魂胆か」
- ロイス 「察しがいいな」
- ニシジマ 「ボクを誰だと思ってるんだい？　アドレマイズ研究の世界的権威、ニシジマ・サトルだよ」
- ロイス 「それでエデンは、バルヴァイドとして再びよみがえる」
- ジヨリィ・ニシジマ 「バル、ヴァイド？」
- ロイス 「君たち風に言うのならば『最強の神』という意味合いかな」
- ジヨリィ 「最強の神？・ですか？」
- ニシジマ 「いや、待てよ。巨人にあの光線をエデンに向かって撃たせるにしても、向こうの思うようにやられたら、こつちは殺されに行くようなもんだ。巨人を任意の位置で静止させる方法は……」
- ジヨリィ 「あの、わたしによいアイディアが……」
- ニシジマ 「おっと本部長。その先はボクが言いますよ。きっと同じことを思いついたんでしようけどね」
- ロイス 「疑似デモンコアについて、少しでもカジつていれば思いつく方法だからな」
- ニシジマ 「イヒヒ。これはちょっと燃えてきたぞ！　ワセダさん、聞こえますか？」
- オペA 「どうぞ」
- ニシジマ 「今すぐ、文科省に連絡をとつてください！」りや、人類史だけでなく、アドレマイズにまで名前を残せるかもだぞ」
- ロイス 「フフフ・だろうな」
- 舞台だつたらそのまま暗転の感じ
- シーン55 横浜市・ベイブリッジ
- 横浜ベイブリッジを走るニチアサテレビの中継車
- ホンマ 「局長直々のご指名とあれば、行かないわけにはイカンよなあ」
- 先・マナカ 「ミナミさんのこと、喉まで出かかったけど、自分でもよく我慢できたと思つわ」
- ホンマ 「オレなんか自分の家族のこと考えたら、絶対に墓場まで持つていいって思つてんのに、さすがだね」
- 先・マナカ 「でも横浜に行けって命令も、もしかしたら、政府からの指示なのかもつて」

1734

ホンマ 「あるいはね」
先・マナカ 「理由を教えてもらえないなんて変よ。エデンの秘密を知つてしまつたとは言つても」

1738 マナカの携帯にメール

1739 先・マナカ 「なんだつて?」

1740 ホンマ 「なんだつて?」

1741 先・マナカ 「理由を教えてもらえないなんて変よ。エデンの秘密を知つてしまつたとは言つても」

1742 ホンマ 「『横須賀基地からミナミくんが逃げ出した。確保してくれ。これは極秘の依頼だ。頼む。コヅカ』ですって」

1743 ホンマ 「なるほど」

1744 先・マナカ 「『バイブリッジに入った途端にこのメールつてことは?』

1745 ホンマ 「あれ? ナビが勝手に横横(横浜横須賀道路の)に案内つてことか」

1746 先・マナカ 「彼女がいそな場所まで案内つてことか」

1747 ホンマ 「防衛省つてここまで出来るんだな」

1748 先・マナカ 「急ぎましよ。エデンは、ミナミさんがいないと動かせない。ようするに人類の危機つてやつよ」

1749 ホンマ 「了解だ!」

1750 1751 1752 1753 1754 1755 1756 1757 1758 1759 1760 1761 1762 1763 1764 1765 1766 1767 1768 1769 1770 1771 1772 1773 1774 1775 1776 1777 1778 1779 1780 1781 1782 1783 1784 1785 1786 1787 1788

速度を上げる中継車

○シーン56 横須賀市・某所 午後2時

蝉が鳴く住宅街を速足で歩くミナミ。太鼓の音が聞こえてくる。時間的に不似合な音が気になって足を運んでみると子供たちが祭りの練習をしている

ミナミ 「暑いイ・お腹空いたな・スーパーの試食コーナーなんて行つたらスグ通報されちやうだろ? でも、よく考えたら、わたし、どこに逃げればいいんだろう?」

ミナミ 「太鼓の音? お祭りかな? でも、夏休みつていつても平日だし、まだ二時ぐらいだし。あ、でも屋台とか出でれば、もしかして、たこ焼きくらいなら少し貰えるかも」

太鼓のお姉さん() 「四年生チーム! ほら! 鐘と太鼓を合わせて!」

ミナミ 「あれ? れんしゅう、か・屋台は無さそ?」

太鼓の少年(歩川) 「お姉ちゃん、おもしろいカツコしてるね」

ミナミ 「え? まあ、ちよつと、いろいろ訳があつて?」

太鼓の少年 「お姉ちゃんも観に来るでしょ」

ミナミ 「え?」

太鼓の少年 「お祭りだよ。今度の日曜日」

ミナミ 「(そんな場合じや...)みんな、逃げないの?」

太鼓の少年 「東京は避難しててる人もいるみたいだけど、この辺は大丈夫だつて先生が言つてた」

ミナミ 「そ、そ」

太鼓の少年 「僕も去年は太鼓を叩いたんだ。でも、病気しちやつたから、今年は観るだけ」

ミナミ 「進級?」

太鼓の少年 「お姉ちゃん何も知らないんだね。太鼓を叩けるのは小学生まで。僕は来年、中学生になつちやうんだ」

ミナミ 「そう、なんだ?」

太鼓の少年 「でもいいんだ。来年は後輩たちに教えられるように病気を治さなきや」

ミナミ 「そう...」

太鼓のお姉さん 「ほら、ここはもつとテンポよく! タン・タン・タタタんつて。そう、その呼吸! それ忘れないで!」

太鼓の少年 「だから、来年のお祭りも期待しててね。今度のもだけ」

ミナミ 「う...うん」

- 1789 太鼓の少年 「約束だよ」
- 1790 ミナミ 「わかった。『…そうだ、電話借りよう。ともかくお姉ちゃんに連絡しないと』
- 1791 ねえ、キミ。スマホかしてくれるかな？」
- 1792 太鼓の少年 「いいけど。お姉ちゃん、持つてないんだ。珍しいね」
- 1793 ミナミ 「うん、ちょっと、落としちゃったんだ」
- 1794 太鼓の少年 「うわー、それは大変だね」
- 1795 少年はポケットから携帯を取り出して
- 1796 1797 太鼓の少年 「はい」
- 1798 1799 ミナミ 「ありがと」
- 1800
- 1801 ○シーン57 ミナミとソラのスカイプ通話・埼玉県エデン宅
- 1802 居間のテーブルに携帯を置いて、それを正座して鳴るのを待っているソラ
- 1803
- 1804 ソラ 「父さんも母さんも、こんなときに限つてブラジル巡業で連絡つかないと、マ
- 1805 ジ終わつてるわ…」
- 1806
- 1807 ソラの携帯が鳴る
- 1808
- 1809 ソラ 「IP通話？ ミナミのIDからだわ？」 でも、ネットは禁止されてるんじや？
- 1810 でも出ない訳にはいかないわよね」
- 1811
- 1812 ソラはボタンをクリックして通話可能にする
- 1813
- 1814 ミナミ 「お姉ちゃん？」
- 1815 ソラ 「あんた、なんともないの？ 熱とかお腹いたいとか」
- 1816 ミナミ 「え？ どうして？」 たしかにお腹は空いたけど
- 1817 ソラ 「は？」 つていうか、太鼓の音とか。あんた今、どこにいるのよ？」
- 1818 ミナミ 「場所？」 あそうか。ねえ、キミ。こここの住所わかる？」
- 1819 ソラ 「ちよつと、ちよつと、どういうことよ。さつきの男なんなのよ」
- 1820 太鼓の少年 「住所も知らないの？」 横須賀市、緑丘《みどりおか》区、諏訪《すわ》だよ」
- 1821 ミナミ 「ありがとね。横須賀のみどー」
- 1822 ソラ 「聴こえたわよ！」 そこが感染病管理センターってこと？ それにしても、その
- 1823 ソラ 下手な太鼓なんなのよ。うるさくて聴こえないわよ！」
- 1824 ミナミ 「かんせんびよう？」
- 1825 ソラ 1時間半くらいでいけるから」
- 1826 ミナミ 「あ、ダメ。わ、わたし、いかないと…」
- 1827 ソラ 「なんですって？」
- 1828 ソラ 「わたし、行かなきやいけないところがあるの」
- 1829 ミナミ 「何言つてんのよ。夏休みの登校日はもうないって言つてたでしょ。図書館でも
- 1830 ソラ 行くの？」 だいたい、あんた横須賀で何やつてんのよ！」
- 1831
- 1832
- 1833 ○シーン58 立川基地・指令室
- 1834 壁のスクリーンに地図が表示され、赤い点滅がミナミの居場所を示している
- 1835
- 1836 オペA 「ダイバーAのネットへのログインを確認。発信エリア、特定。神奈川県横須賀
- 1837 市・緑丘区、諏訪ブロック、マル・マル・ナナ。ファイアウォールを越えられますが、
- 1838 通話内容は記録しますか？」
- 1839 コヅカ 「必要ない。目と鼻の先か。現場の勘もまだ衰えてはいなかつたか」
- 1840
- 1841 コヅカは、言いながらマナカの携帯に電話する
- 1842
- 1843 先・マナカ 「マナカさん、ミナミくんが見つかった。そこから諏訪公園に向かつてくれ。G
- 1844 コヅカ 「マナカさん、ミナミくんが見つかった。そこから諏訪公園に向かつてくれ。G

- 1845 P.S.で誘導する
- 1846 先・マナカ「諏訪公園なら五分あれば行けます！」
- 1847 コヅカ「わかつて。頼むぞ」
- 1848
- 1849 ○シーン59 横須賀市・諏訪公園
- 1850 太鼓の音が大きくなるので、声が大きくなるミナミ
- 1851 コヅカ「わかつて。頼むぞ」
- 1852 ミナミ「わたし、行くの！」
- 1853 ソラ「どこに!?」
- 1854 ミナミ「ともかく、心配しないで！」
- 1855 ソラ「ちょっとミナミ、待ちなさいよ！」
- 1856
- 1857 ミナミ、通話を切り、携帯を少年に渡す
- 1858
- 1859 ミナミ「スマホ、ありがと」
- 1860 太鼓の少年「これから、どつか行くの？」
- 1861 ミナミ「うん。ちょっとね」
- 1862 太鼓の少年「気を付けてね。お祭り、来てよね」
- 1863 ミナミ「わかった」
- 1864 太鼓の少年「じやあね」
- 1865 ミナミ「じやあね」
- 1866
- 1867 走り出すミナミ。太鼓の音が小さくなり、蝉の声が大きくなる
- 1868
- 1869 ミナミ「とにかく戻らなきや」
- 1870
- 1871 ○シーン60 横須賀市・諏訪公園・外
- 1872 諏訪公園脇の国道を走るニチアサテレビ中継車
- 1873 マナカは大通りの反対側を走るミナミをみつける
- 1874
- 1875 先・マナカ「停めて！ 道路の向こう側、走ってるのミナミさんだわ！ ミナミさん！」
- 1876 ミナミ「え？ マナカさん？」
- 1877
- 1878 横断歩道の信号機が青になる。メロディは、とおりやんせ。渡るのをためらうミナミ
- 1879
- 1880 先・マナカ「ミナミさん。ちょっと待ってえツ！」
- 1881 ミナミ「」の信号を渡つたら、もう、戻れない。でも…」
- 1882
- 1883 ミナミが渡ると横断歩道が赤になる。ミナミはマナカの元に走り寄る
- 1884
- 1885 先・マナカ「ミナミさん…」
- 1886 ミナミ「あの…」
- 1887 先・マナカ「いいの。わかるわ。誰だつて怖いもの。それが普通よ」
- 1888 ミナミ「わたしを、立川まで連れて行つてください」
- 1889 先・マナカ「え？ 今、なんて？」
- 1890 ミナミ「わたしを立川基地まで運んでください」
- 1891
- 1892 ○シーン61 立川基地・エデン格納庫
- 1893 種子島から緊急輸送された、ふしちょうが天井ゲートから搬入される
- 1894 それを見上げるニシジマとジユリエット
- 1895
- 1896 ニシジマ「おお！ さすが本部長。こういうの運ばせたら米軍は天下一品ですね」
- 1897 ジユリエット「これでアンダーソン駐日大使には借りを作つてしましました。大学のコネクションを使うのはわたくしのポリシーに反するのですが：種子島から立川までの輸送代
- 1898 は、ドクターのサラリーから天引きさせていただきます」
- 1899 ニシジマ「けつこう、けつこう、大《だい》けつこう！ 特急割増料金でもノープロブレ
- 1900 ム

- 1901 ム！ アメリカバンザイ！ 見てくださいよ。この不死鳥のパーティを使って巨人をコテンパンにやつつけてやりますから！」
- シーン62 立川基地・廊下
- 1903 ミナミが脱走から立川基地に戻ってきて、キタヤマと廊下を歩いている
- 1904 1905 ミナミ、うつむきながら歩く。先を行くキタヤマ
- 1906 1907 1908 1909 1910 1911 1912 1913 1914 1915 1916 1917 1918 1919 1920 1921 1922 1923 1924 1925 1926 1927 1928 1929 1930 1931 1932 1933 1934 1935 1936 1937 1938 1939 1940 1941 1942 1943 1944 1945 1946 1947 1948 1949 1950 1951 1952 1953 1954 1955 1956
- キタムラ 「見直したぜ」
ミナミ 「逃げ出したのに？」
キタムラ 「シャワー室に置いてあつたバスローブだけで横須賀基地を抜け出して、真昼間『まつびるま』の住宅街で洗濯物を盗んで逃走。しかも、それなりに変装してたつて聴いたぜ。完全に大悪党だな」
ミナミ 「必死だつた、んです」
キタムラ 「必死になればなんでも出来ちやう、つて、じだな」
ミナミ 「それより、怪我。大丈夫なんですか？」
キタムラ 「この通り。ピンピンしてるさ」
ミナミ 「でも、ギブスしてるし」
キタヤマ 「心配してくれちやうわけ？」
ミナミ 「そんなことありません！」
キタヤマ、止まって振り向く。ハツと止まるミナミ
キタムラ 「や、乗つてくれちやうわけでしょ。オレと」
ミナミ 「そういうことに、なります、けど…」
キタムラ 「よし。じゃあ、とりあえず夕飯食おうぜ」
キタムラ、踵をかえし歩き出す
ミナミは、謝ろうとする気持ちと、まだ決意が揺らいでいる間で迷つている
ミナミ 「あの…」
キタムラ、一旦、立ち止まり振り返る
キタムラ 「まだなんか言い訳あるの？ オレ、腹減ったんだけど」
速足で歩き出すキタムラ
ミナミ 「あ、はい」
キタムラ 「まだなんか言い訳あるの？ オレ、腹減ったんだけど」
速足で歩き出すキタムラ
キタムラ 「何が良いかなあ。なんか、こうカッコいいのがいいよなあ」
○シーン63 立川基地・指令室
作戦内容を表示した壁のスクリーンを前に椅子に座る、コヅカ、ジュリエット、キタヤマ、ミナミ、特殊服を着たロイス。そして得意げに説明をするニシジマ
ニシジマ 「これが、名付けて『ふしちょう作戦』であります！」
キタヤマ 「不死鳥を使うから不死鳥作戦って、なんか安直すぎじやねーですか、ハカセ」
ニシジマ 「シンブル・イズ・ベスト！ こういうのは覚えやすい方がいいの。援護してくれる自衛隊はもとより、第七艦隊にも受けがいいんだよ」
コヅカ 「巨人を抑え込む仕組みはわかった。で、その巨人をどうやって引っ張り出す？」
ロイス 「ブルハトウは明確にエデンに敵意を持っている。こちらからホールに向かっていけば、おいそれと出てくるに違いない」

- 1957 ジュリー 「本当にナンの餌も捲かずに寄つてくるのでしようか」
 1958 ニシジマ 「ブルハトウにとつてエデンこそが究極のランチってやつですよ」
 1959 ロイス 「彼らは戦闘意識が強い種族だ。そしてプライドも高い。エデン・ワンとツーに別れたエデンが攻め入ってきたとわかれれば、黙つてはいられない」
 1960 1961 コヅカ 「問題は三つ。ひとつは、エデン・ワンとツーに分離した状態では、ワンのダイバーであるミナミくんの飛行をキタヤマ主任がサポートできない」
 1962 1963 ミナミ 「す、スミマセン…」
 1964 コヅカ 「二つ目は、巨人を抑え込むまでの時間だ。ツーはバッテリー駆動のため合体するまではワン側からのエネルギー供給ラインが確保できない」
 1965 1966 ジュリー 「スカーレット・ユニットは使えませんか？」
 1967 コヅカ 「本来ならそつたいところだが空中給電をするために巡航速度をマツハ0.8まで減速するのは本末転倒。稼働時間が一二〇分程度を想定されるツーを活かすには、巨人の光線をそれまでに浴びなければならぬ。そして三つ目は、合体後、巨人の光線を利用して合体したエデン。つまりバルヴァイドのコントロールは、想定されるケースから総合的に判断するに、ミナミくんに委ねられるということだ。巨人をキヤツチしていられる時間はわずか一八〇秒。これはミナミくんに決意をしてもらう他はない」
 1968 1969 キタヤマ 「大臣、心配ねーっすよ！ エデン・ツーはオレが単独で操縦できるんだし、不死鳥だつてオレが運ぶ。合体は、間に合いそうなタイミングでオレがエデン・ワン側にドリヤーつて突っ込めば済む話です。合体したあとだつて、このオレが万全のサポートをしますって」
 1970 1971 1972 1973 1974 1975 1976 1977 1978 1979 1980 1981 1982 1983 1984 1985 1986 1987 1988 1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 ジュリー 「巨人は、前回の行動パターンからして横倒しになつた姿勢でいることに不都合が生じるのだと思われます。ですから、バルヴァイドになつた後は、巨人を横倒しにして、そこでキヤノンを一発ブチかませばこちらの大勝利つてわけです。不死鳥の操作は、このニシジマにお任せください！」
 ニシジマ 「よ！ さすがショーティングゲーム大会の世界チャンプ！」
 キタヤマ 「五連覇したあとにここに呼ばれて記録が伸ばせなかつたのは残念だが、こつちの方があがりがいがある」
 コヅカ 「それはもう聞き飽きた」
 ニシジマ 「巨人は、前回の行動パターンからして横倒しになつた姿勢でいることに不都合が生じるのだと思われます。ですから、バルヴァイドになつた後は、巨人を横倒しにして、そこでキヤノンを一発ブチかませばこちらの大勝利つてわけです。不死鳥の操作は、このニシジマにお任せください！」
 キタヤマ 「だから博士がきちんと不死鳥を動かしてくれりやいいんす。ミナミはそれまで、普通にまつすぐトビヤあいいんだ。な、ミナミ」
 ニシジマ 「あ、はい。ガンバリマス」
 ロイス 「バルヴァイドになれば、ルーフケイズ結界のチカラが更に増大され、想像を超える威力を持つことになる。その力でブルハトウを殲滅できるだろう」
 コヅカ 「ロイス殿の言葉にこれまで偽りがなかつたようだ。それが事実ならば、我々は人類史上で最も強力な兵器を手にすることになる」
 ジュリー 「ブルハトウの本拠地を叩いたのち、バルヴァイドは再びICMCの元で管理される事が決定しました。ですが、まずは、不死鳥作戦の成功を祈ります」
 ○シーン64 マリアナ海溝・底 ブルハトウ基地
 測定器の示す値の不可思議さに疑念を持つボグライ
 それを気にしないガナミア
 ボグライ 「なんだ、この波動は？ ダマスの変換効率が下がつていいが…」
 ガナミア 「どうした、ボグライ。なぜ出撃せん！」
 ボグライ 「大気圏中のルーフケイズ結界の濃度が揺らいでいるのです。何か良からぬ兆候なのではと」
 ガナミア 「浄化の進んでいない世界には、ままあふいふ。気にするな。出すぞ」

2013	ボグライ 「ははあ」
2014	ガナミア・ボグライ 「すべては浄化のために」
2015	○シーン65 立川基地・指令室
2016	レーダーにホールの反応をキャッチし、いわに緊張感が高まる。ロイスも防護服を着
2017	て、指令室にいる
2018	
2019	
2020	オペC 「小笠原ホールに時空振動発生」
2021	コヅカ 「こちらの取り越し苦労だったというわけか」
2022	ジユリー 「ミナミさん、大丈夫。あなたなら、できるわ」
2023	ミナミ 「はい」
2024	コヅカ 「よし、エデン・ワン、ツー、出撃だ」
2025	キタヤマ 「了解！ いくぞ、ミナミ！」
2026	ミナミ 「がんばります！」
2027	
2028	指令室を駆け出していくキタヤマ、ミナミ
2029	
2030	オペA 「監視衛星からの映像です！」
2031	オペC 「時空振動率、七〇、八五、九八、一〇〇」
2032	ニシジマ 「巨人め、また逆さまに出でたな」
2033	オペB 「巨人、姿勢を反転しました」
2034	コヅカ 「今度はイエローカ」
2035	ニシジマ 「でも、前回と同じ機体ですよ」
2036	コヅカ 「なぜわかる？」
2037	ニシジマ 「左肩をRFキヤノンがかすつた跡が残っている。ところが、やつのはメンテナンスには神経質じやない。または損傷が小さいペーツは交換しない。もしくはでもない。つまりペーツの補充体制が思ったより万全じやないのかね」
2038	「では、今回は何が目的で出てきたのだ？」
2039	コヅカ 「ロイス、ジユリー 「観光旅行かもな。エデンを倒して気をよくしているのかもしれん」
2040	「だといいのですが」
2041	
2042	
2043	
2044	○シーン66 エデン・発進シーケンス
2045	オペA 「エデン・ワン、ツー。収納容器《しゅうのうよつも》、減圧《げんあつ》開始」
2046	オペB 「拘束《こうそく》用アンカーボルト、ロック解除」
2047	オペD 「ダイバーとのシンクロシステム起動」
2048	キタヤマ 「シンクロシステム、起動。ツーはキタヤマ・リョウ！」
2049	ミナミ 「エデン・ワンはエダ・ミナミです！」
2050	オペA 「ダイバーの声紋照合《せいもんしょうじゆう》」およびバイタルサイン確認
2051	「コックピット内へのRFL《あーる・える・える》充填《じゅうてん》完了」
2052	キタヤマ 「ミナミ、安心しろ！ お前は俺が必ず守る」
2053	ミナミ 「わかつてます。だからマニユルも拡大コッパーしておひつたんですよ」
2054	キタヤマ 「その意気だ！」
2055	オペA 「エデン・ワン、ツー、両機のルーフケイズ・ドライブ、接続。エンジン出力上昇。」
2056	「ツーは五百ルースト」
2057	コヅカ 「博士、不死鳥の準備はいいな」
2058	ニシジマ 「完璧ペキペキですよ！」
2059	キタヤマ 「バツチリ現場まで運びますよ！」
2060	オペD 「フィルター展開。最大効果定数《せいこうじやうじゆう》、エデン・ワンは
2061	九百。ツーは五百ルースト」
2062	「ツーはやはり出力があがりませんね」
2063	ジユリー 「上級者には常にハンデがつきものでしょ！」
2064	キタヤマ 「巨人は蛇行して本州に接近中。進路の延長線上は…東京湾です。誤差、コノマ
2065	オペC 「巨人は蛇行して本州に接近中。進路の延長線上は…東京湾です。誤差、コノマ
2066	三」
2067	コヅカ 「気合入れていけよ！ エデン・ワン、ツー、リフトアップ」
2068	○シーン67 昭和記念公園・外

2069 ハーデンの発進を中継するマナカ

2070

2071 先・マナカ「いま、昭和記念公園から二機に分離された状態のエーデンが飛び立ちました。
2072 二番機には種子島から輸送された不死鳥を搭載した立方体のカプセルが搭載されています。小笠原ではホールが発生し、ブルハトウの巨人が出現した模様です。」これより、
2073 わたしたちも、遠隔操縦の移動カメラを使って中継を続けます！」

2074

2075 ○シーン68 巨人、操縦席

2076 2077 海上をスレスレに飛ぶ巨人。移動速度はマツハ4

2078 巨人が飛び去った後に衝撃波で波が立ちあがり、その軌跡に虹が続く

2079

2080 ガナミア「風を感じる」とが出来ないのはもどかしいが、それもあと少しの辛抱」

2081 ボグライ「ガナミア様、」連絡が

2082 ガナミア「どうした」

2083 ボグライ「ギガンドールの反応に」やいます」

2084 ガナミア「ほお。お前もたまには冗談を言つようになつたのか」

2085 ボグライ「いえ、まことの事に」やいます」

2086 ガナミア「なんだと？」

2087 ボグライ「値は弱くはなつていますが、反応が二つ確認であります」

2088 ガナミア「ギガンドールが二体だと！」この世界の人間は、一度に二体のギガンドールを

2089 操れるというのか？」

2090 ボグライ「こちらに向かっておりますゆえ、ガナミア様と、もう数デメンカで接触いたします」

2091 ガナミア「面白い。負けるとわかつていながらあがく輩を叩きのめすのは総督の教えに反

2092 するが、向かってくる方が悪いのだ。どの道、浄化の際には朽ち果てるサダメ。チリ

2093 よりも細かく粉碎してくれぬ」

2094 2095

2096 ○シーン69 立川基地・指令室 午前一時二〇分

2097 巨人が東京に向かつてくる。移動速度はマツハ4

2098

2099 オペA 「巨人の移動速度、マツハ四」

2100 コヅカ 「速いな」

2101 オペB 「巨人が蛇行をやめて直進になりました」

2102 ニシジマ 「こちらが動いたことに気付いたのかもしれん」

2103 オペC 「ハーデン・ライトと巨人のコンタクト予想はヒトヒトサンマル」

2104 ジュリー 「本州に近すぎます」

2105 コヅカ 「第三管区航行警報の対応状況は一分おきに短縮するよう海運局に通達」

2106 オペB 「了解」

2107 オペA 「第二アクアラインは防潮堤の高さを五〇メートルに設定したと国交省から通達

2108 あり 「巨人が速度をあげてくれたおかげで、いいちのチャンスが増えたつて」と

2109 ニシジマ 「第二アクアラインは防潮堤の高さを五〇メートルに設定したと国交省から通達

2110 「巨人を本土に近づけるなよ。君の大事な女の子たちが被害を」

2111 キタヤマ 「うむる」となる

2112 キタヤマ 「巨人が速度をあげてくれたおかげで、いいちのチャンスが増えたつて」と

2113 ニシジマ 「好きにはさせませんつて」

2114 ロイス 「そういうことだ」

2115 ジュリー 「フフツ…ますます好都合だ。コヅカ。わたしは外に出ても構わんか？」

2116 ロイス 「フェーズワンでは基地の外に出られない規則です」

2117 コヅカ 「いいでしよう。だが防護服には直射日光を遮るバイザーを付けていない。ロイ

2118 ス殿の目には眩しそうな光芒が見えます」

2119 ロイス 「デモンコアがそうしろと告げているのだ」

2120 ジュリー 「いいでしよう。だが防護服には直射日光を遮るバイザーを付けていない。ロイ

2121 ジュリエットは胸のポケットからサングラスを出してロイスに渡す

2122 ロイス 「ありがとうございます」

2123 ロイス 「ありがとうございます」

2124

- 2125 指令室を出でいくロイス。自動ドアが閉まる
- 2126 2127 2128 2129 2130 2131 2132 2133 2134 2135 2136 2137 2138 2139 2140 2141 2142 2143 2144 2145 2146 2147 2148 2149 2150 2151 2152 2153 2154 2155 2156 2157 2158 2159 2160 2161 2162 2163 2164 2165 2166 2167 2168 2169 2170 2171 2172 2173 2174 2175 2176 2177 2178 2179
- シーン70 房総半島と八丈島の間ぐらいの海域
空中で接触するエデン編隊と巨人
- シージャ「こま、ありがとう、って言ったよね？」
- ミナミ「くぬぞ、ミナミー！」
- ミナミ「はい」
- ミナミ「あ、オカリナさんが黄色から青になつた」
- キタヤマ「オカリナさん？」
- ミナミ「だつて、オカリナみたいでしょ」
- キタヤマ「たしかに」
- コヅカ「巨人の色が青に戻つたぞ」
- ニシジマ「絶対にチュパカブラと一緒になんだよ、あの装甲は」
- オペB「オペB」
- コヅカ「第四格納庫でアラーム発生。あら？」
- ガナミア「この戦いが終わつたら死ぬほど点検させてやる」
- ガナミア「フフフ。ハハハ。ハツハツハツハツハ。二体なのではない。分断されても、つなぐことが出来なかつただけなのだ。ボグライ！　お前にこのくだらない姿を見せたかつたぞ」
- ボグライ「ですが、お気を付け下さい。どちらか一方の反応が徐々に増大しております」
- ガナミア「ならば、撃ち落とすまで」
- オペA「巨人の腕にエネルギーが集中してます」
- キタヤマ「早くもチャンス到来！」
- コヅカ「不死鳥、展開しろ！」
- ニシジマ「お任せタイム突入！」
- シーン70・4 ハピソード3・ラスト～次回予告
- ED 主題歌 1分30秒
- 次回予告用 BGM
- シーン70・5 ハピソード4・オープニング
- 「アオサワくんの気象情報の報告があつての、いよいよ」
- オペB「タミコさんも鼻が高いですね。まあ、ボクは所詮、ダイゲイのオチケンですけどね」
- オペC「あすが、褒め殺しのオウジ・タミコ」
- オペD「こら、ノリマサ。茶化すんじやない」
- オペD「ワセダチーフは知らないんですよ。タミコさんの怖さを」
- オペB「それ、どういうことよ」
- オペD「言つてもいいんですか、あの」と
- オペB「こら！　お前たち！　これが最終話の予告だと分かつてているのか！」
- N「次回、超鬼兵ガルヴァイド エデン・ダイバー。ハピソード・フォー。『流星になつた少女』」
- ミナミ「（悲壯な決意で）みなさん、ありがとうございます！」
- ミナミ「（悲壯な決意で）みなさん、ありがとうございます！」
- シーン70・5 ハピソード4・オープニング
- 「アドレマイズの混沌が、人類の歴史に爪痕を残した惨事から、すでに十数年が経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯えなければならなかつたのだ。果たして救世主はどいにいるのか。それは誰にも答えることができなかつた…」
- 主題歌 ver4・0 ワンコーラス 1分30秒
- アイキャッチ
- N 「ハピソード・フォー 流星になつた少女」

2181 前回のあらすじ

2182

2183

2184

2185

2186

2187

2188

2189

2190

2191

2192

2193

2194

2195

2196

2197

2198

2199

2200

2201

2202

2203

2204

2205

2206

2207

2208

2209

2210

2211

2212

2213

2214

2215

2216

2217

2218

2219

2220

2221

2222

2223

2224

2225

2226

2227

2228

2229

2230

2231

2232

2233

2234

2235

2236

N

「横須賀基地から逃亡したミナミは、少年たちが週末に開催される祭りの練習をする姿を自分に映し、再びエデンに乗り決意を固めた。しかし、エデンは巨人の攻撃によって上下に分断されたままの出撃をするしかなかった。そして、今、あせに、エデンがよみがえろうとしていた」

○シーン7 1 エデン合体

先・マナカ「これは五〇キロ離れた場所からの超望遠カメラでとらえた映像です。ラジオでも同時に継しています。今、不死鳥が入った立方体のカプセルが、エデン一一番機から切り離されました」

先・マナカ「立方体がピラミッドのような三角錐に分離して、空中を移動しました」

ガナミア「塵となれ、出来そないじも！」

ジュリー「撃つて来ます！」

ニシジマ「待つてました！」

ガナミア「消えろ！ ギガンドール！」

巨人が光線を発射！

ミナミ・キタヤマ「ハカセ！」

ニシジマ「ほいきた！」

ニシジマがコンソールに繋げたゲーム操作器のボタンを押す

先・マナカ「三角錐が巨人を両側から挟みこむように停止しました」

ニシジマ「チエックメイト！」

先・マナカ「三角錐からオーロラのような光線が巨人に向かって照射されています」

ガナミア「なんだ？」ノエディーが動かんだ。ボグライ、どうしたんだ！」

ボグライ「まさか、アドレマイズの」

ニシジマ「見たか！」これぞ純日本製のデモンフオールドだ！」

オペA「フオールド確認。巨人との相対速度ゼロ。成功です」

先・マナカ「巨人が三角錐に挟まれたまま身動きしません。いや、ちょっととずつ方向を変えているようです。巨人は横倒しになり、二機のエデンは巨人の発射した光線に向かって行きます！」

ガナミア「なんだと！ ノエディーの操縦を乗つ取られたのか？」

ニシジマ「空に向かって撃たせれば、どこにもあたるまい！」

コヅカ「いまだ。カーテン展開！」

先・マナカ「一番機、二番機の両方からパラボラ・アンテナがせり出しました！」

キタヤマ「いくぜ、ミナミ！」

ミナミ「はい！」

オペD「合体キーワードをどうぞ！」

キタヤマ「ワンフォア・オール！」

ミナミ「オール・フオア！」

オペA「エデン、合体プロトコル、スタート！」

オペB「衛星バックアップシステム、良好」

○シーン7 2 バルヴァイド誕生！

エデン・ワン、ツーが巨人の光線を受けながら接近する

ガナミア「こちらの粒子を吸収して再び一体化しようというのか！ ええいッ！」

ボグライ「ガナミア様いません。ギガンドールにチカラを与えるだけと思われます！」

ガナミア「うるさい！ わかつておる！」

ニシジマ「おつと、こっちの作戦に気付いたか。でも、もう遅かりし！」

キタヤマ「そのまま真っ直ぐ飛んで！」

ミナミ「はい！」

- 2237 オペD 「ヒデン・ワン、ツーのヒンジン出力上昇中」
- 2238 キタヤマ 「よし！ 合体マーカー、軸合わせ成功。後ろからガツンと行くぜ！ そしたら
- 2239 お前さんの出番だ」
- 2240 ミナミ 「ねかってます！」
- 2241 ヒデン、ドッキング！
- 2242
- 2243 先・マナカ「エデンがドッキングします。上半身と下半身に別れて飛行していた1機が、
- 2245 ドッキングして人の形になりました！」
- 2246 ミナミ・キタヤマ「合体成功！ 超鬼兵バルヴァイド、降臨！」
- 2247
- 2248 ○シーン73 デモンアロー出現
- 2249 バルヴァイドの右手が発光する
- 2250
- 2251 ジュリー 「バルヴァイドの右手が！」
- 2252 オペD 「バルヴァイド、エンジン出力、五千ルースト」
- 2253 コヅカ 「あれば、新しいチカラ」
- 2254 ロイス 「そう。あれこそ、わたしが求めたチカラ。デモンアローを導き寄せたバルヴァ
- 2255 イドの姿」
- 2256 ニシジマ 「デモンアロー…」
- 2257 キタヤマ 「なんか右腕に弓みたいのが出て来ちゃったけど、これ使えるんすか？」
- 2258 ミナミ 「大丈夫です！ わたし弓道部ですから！」
- 2259 キタヤマ 「了解！ リラックスしていけよ、補欠さん！」
- 2260 ミナミ 「今はわたしだけしか射位《しやい》に立てないんです！」
- 2261 ガナミア 「おい！ ボグライ！ なんとかしろ！」
- 2262 ボグライ 「そう言われましても」
- 2263 先・マナカ「三角錐が完全に巨人を固定しています」
- 2264 ミナミ 「よし！ まずは」
- 2265 コヅカ 「おい、早く撃てよ！」
- 2266 キタヤマ 「足踏《あしふ》みに入る前には礼をしないと」
- 2267 キタヤマ 「そんな場合かよ」
- 2268
- 2269 ハナミ、大きく深呼吸して息を吸う
- 2270
- 2271 キタヤマ 「なにやつてんだ！」
- 2272 ミナミ 「的との間合いを測つてるんです！」
- 2273 オペD 「巨人との距離、二・六キロメートル」
- 2274 ミナミ 「やういう問題じやないんです！」
- 2275
- 2276 ソラの言葉・回想
- 2277
- 2278 ソラ 「ハ)ないだは晴れ着まで買つてあげたつてのこ、一本も刺やしないんじや必要な
- 2279 かつたわね」
- 2280 コヅカ 「ハナミくんは何をしているんだ！」
- 2281
- 2282 ミナミ、弓道の呼吸を整えるため、射場でのリズムを思い出し、集中するために正射必
- 2283 中を何度も唱える
- 2284
- 2285
- 2286 ミナミ 「遠的《とおまど》」だけ…、正射必中《せいしゃひつちゅう》、正射必中、正
- 2287 射必中
- 2288 ニシジマ「なるほど。ミナミくんはまさに弓を引いておこしてくるのか」
- 2289 ジュリー 「しかし、デモンフォールドのタイムリミットが」
- 2290 キタヤマ 「ミナミ、チヤンスを逃す気か！」
- 2291 ミナミ 「流鏑馬《やぶさめ》よりは簡単なハズ。集中しなやこ、ハナミ」
- 2292 キタヤマ 「撃て！」

- 2293 ミナミ 「弓きます！」
- 2294 ○シーン74 デモンアロー命中
- 2295 デモンアロー発射！
- 2297 2298 先・マナカ「合体したエデンが、光の矢のようなものを発射しました！」
- 2299 キタヤマ「アタれ！」
- 2300 2301 ガナミア、嘲るように不敵に笑う
- 2302 ガナミア「ナニア、嘲るよ！」
- 2303 ガナミア「フツ…」
- 2304 キタヤマ「ダメだ。弾道がそれでる！」
- 2305 2306 先の矢が軌道を変えて巨人に向かう
- 2307 2308 先・マナカ「エデンが放った光の矢が空中で急に角度を変えて巨人に向かって行きます…」
- 2309 ガナミア「なんだと！」
- 2310 ニシジマ「スネルの法則だ！ 巨人のバリアがプリズムの役目をしたんだ！」
- 2311 2312 巨人の胸部を貫通する光の矢
- 2313 2314 キタヤマ「よつしや！」
- 2315 ガナミア「ありえん！ ダマスを突き破ったというのか」
- 2316 先・マナカ「エデンの放った光の矢が、巨人の胸部を貫通しました！」
- 2317 ニシジマ「デモンアローはようするすにクアンタム・トンネリングなんだ！」
- 2318 2319 巨人が凍りだす
- 2320 2321 ガナミア「なに！ 機体が氷結しているだと…」
- 2322 ジュリー「巨人の様子が変です」
- 2323 オペC 「巨人周辺の気温が急激に低下していきます」
- 2324 ニシジマ「量子トンネル効果だけじゃない。局地的なナノケルビン領域を作り出して巨人を粉碎する気だ。スゴイ！」
- 2325 2326 コヅカ「どういうことだ？」
- 2327 ニシジマ「絶対零度ですよ。マイナス二七三度。熱力学第三法則を破る瞬間を見れやんて！」
- 2328 2329 ミナミ「オカリナさんの色が変わつてく」
- 2330 キタヤマ「冷やしてやつてるのに赤くなるか」
- 2331 ニシジマ「効いている証拠だ。見ていてください。巨人が粉々に砕け散るぞー」
- 2332 ガナミア「ギガンドールめ、もう容赦はしない」
- 2333 先・マナカ「巨人の色が黄色から青、そして赤に変化しました」
- 2334 2335 巨人、絶対零度で原子レベルで氷結し、実体を維持できなくなり自己崩壊する
- 2336 2337 ○シーン75 バルヴァイドが勝利したように見えたが
- 2338 粉々になつて風に流される巨人のボディの欠片を見て安堵するミナミたち
- 2339 2340 ミナミ「やつた！」
- 2341 キタヤマ「よくやつた、ミナミ」
- 2342 先・マナカ「巨人が砕け散りました！ エデンの放った光の矢で巨人が粉々になりました。」
- 2343 キラキラと輝く粒になつて舞つています
- 2344 コヅカ「よし、やつたな」
- 2345 オペA 「巨人のいたポイントに十トンの質量を確認」
- 2346 コヅカ「なに!?」
- 2347 ジュリー「なんですか、あれは…」

- 2349 ガナミアのいる操縦席は強固なダマスで守られており浮いている
- 2350
- 2351 先・マナカ「巨人のいた場所に、銀色に輝く球体が浮いています。対象物がないため正確
- 2352 にはわかりませんが、かなり小さなものです」
- 2353 ニシジマ「まさか：絶対零度のハズなのに。どうして」
- 2354 オペC「直径三メートルの球体です。分子構造は不明」
- 2355 ガナミア「もう、チマチマとやるのはやめだ！」
- 2356 ボグライ「ガナミア様、しかし…」
- 2357 ガナミア「うるさい！」
- 2358 ガナミアの乗るコックピットボックスが発光する
- 2359
- 2360
- 2361 ミナミ「なにか光りました」
- 2362 キタヤマ「ぱっとしてないで後退しろ！」
- 2363 ミナミ「え？」
- 2364 オペC「球体を中心に重力場のゆがみが発生」
- 2365 オペD「ルーフケイズ・フィルターと干渉しています」
- 2366 ガナミア「最高の死に場所を用意してやる。シテーイツ！」
- 2367
- 2368 コックピットボックスから光線が発射される
- 2369
- 2370 ミナミ「よけきれません！」
- 2371 キタヤマ「くそッ！」
- 2372 コヅカ「なんだあの光は」
- 2373 オペA「測定不可能です」
- 2374
- 2375 バルヴァイドが光線を受けた一帯が乱反射で眩しくなる
- 2376 光が消えるとバルヴァイドとコックピットボックス、不死鳥がいない
- 2377
- 2378 オペB「バルヴァイド、全モニタリング数値、ゼロ。消失です！」
- 2379 オペC「不死鳥の反応なし！」
- 2380 ジュリー「バルヴァイドと不死鳥が：消えました」
- 2381 オペD「東京湾に時空振動」
- 2382 「バルヴァイドの反応あり。北緯三六・六、東経一三九・八」
- 2383 ニシジマ「なぜそこなんだ!?」
- 2384
- シーン76 有明が戦場になる
- 2385 マナカたちのすぐそばの上空に姿を現すバルヴァイドとガナミアの球体
- 2386
- 2387
- 2388 先・マナカ「なに？ そんな…空が割れています。あり得ない」とですが青空に亀裂が入
- 2389 り、え？ エデンです。エデンがわたしたちの真上に、有明にエデンが現れました！
- 2390 三角錐も銀色の球体も一緒です！」
- 2391 ミナミ「どうして？ キタヤマさん、下を見てください！ あれ、ビッグサイトですよ
- 2392 ね！」
- 2393 キタヤマ「間違いない。でも、なんでこりに!?」
- 2394 ガナミア「はつはつはつはつは！ さあ、攻撃してみろ」
- 2395 ミナミ「こじや戦えない」
- 2396 キタヤマ「ハカセ！」
- 2397 ニシジマ「わかつちやいるが」
- 2398 コヅカ「戦場そのものを人質にするとは卑劣《ひれつ》なことを」
- 2399 ガナミア「ボグライ。コントロールボックスではもう攻撃が出来ん。今すぐ海底から船を
- 2400 移動させてこちらに来い！」
- 2401 ボグライ「それではダマスが」
- 2402 ガナミア「そんなものは、この陸地をすべて焼き払ってから考える」
- 2403 ミナミ「え？ どうということ？ いま、聴こえましたよね。キタヤマさん」
- 2404 キタヤマ「なんかいい事聴いた気がする」

2405 ニシジマ 「おさか。ブルハトウの？」
2406 ガナミア 「なんだ？ ギガンドールからか？」
2407 コヅカ 「なんだこの声は？」
2408 オペB 「バルヴァイドからの回線に乗ってきています」
2409 ロイス 「だよね。ブルハトウが日本語を話せたらマンガだもの。ミナミくん！ 強気で
2410 ニシジマ 「いけ！」 奴らにはこちらに攻撃する手段がない。その時間稼ぎのために空間転移を使
2411 つたんだ」
2412 ミナミ 「でも、オカリナさんの中に人が…」
2413 キタヤマ 「人じやない！ 異次元人だ！」
2414 ミナミ 「人を弓で射《い》るなんて、やつちやダメです…」
2415 コヅカ 「人類を救えるチャンスだぞ！」
2416 ガナミア 「貴様たちと同じ下等な生き物と一緒にするな」
2417 キタヤマ 「お前の苦しみはオレが一緒に、一生背負つてやる。だから一発でいい！ また
2418 右手の弓で当てるんだ！」
2419 ミナミ 「キタヤマさん…さっきのはマグレなんです。狙つたのはもつとトド」
2420 キタヤマ 「ならオレがバランスをとる」
2421 ミナミ 「同じ矢色《やいろ》を出すなんてできません」
2422 キタヤマ 「わかるように言つてくれよ」
2423 ミナミ 「同じコースで矢が飛ぶようにねやん間違えて弓を引くなんて出来ないんでや」
2424 ジュリー 「今のは会話も聴かれたんですね…」
2425 コヅカ 「非常に都合が悪い現象だ」
2426 ガナミア 「なんと。このような戦士にノエティがやられと。…総督には報告できんな」
2427 2428
2429 ○シーン77 ロイス、立川から有明にテレポート 立川基地＆有明
2430 オペC 「第七艦隊より伝令。マリアナ海溝から本州に接近してくる物体を感知。速度百
2431 ノット」
2432 キタヤマ 「ブルハトウの次の手というわけですか」
2433 ミナミ 「お話ししてみます」
2434 キタヤマ 「誰と？」
2435 ミナミ 「ブルハトウさんと」
2436 キタヤマ 「なんだって？」
2437 ミナミ 「こんなに言葉が通じるのに、分かり合えないなんて、いらないと思ひます」
2438 ガナミア 「はつはつは。冗談はよせ。我々の作戦を止めようなどと無駄な、」
2439 ミナミ 「ただ壊して回るだけだなんて、そんなことに意味があるんですか？」
2440 ガナミア 「意味？ 意味だと？ 愚問。愚問だ。愚問する。净化こそ我らの正義。それ
2441 以外にどんな選択肢があるというのか」
2442 キタヤマ 「浄化ってなんだ！」
2443 ガナミア 「教えても理解できぬ偉業のことだ」
2444 コヅカ 「なんだ、浄化とは？」
2445 ロイス 「さあね。彼らにも大義がある、ということはわかつたな」
2446 ガナミア 「大陸がひとつ沈むくらいなんだというのだ。この星では四つ目だが、まだ浄化
2447 には程遠い」
2448 ニシジマ 「四つ目？」 太平洋のムー！ 大西洋のアトランティス！ インド洋のレムリア！
2449 全部本当にあつたのか！ っていうか、やつらはいつから地球に干渉してるんだ？」
2450 ジュリー 「そんな謎は後にしてくれださい」
2451 キタヤマ 「ミナミ、みんな死んじまつたらオシマイなんだ。今は奴を撃て！」
2452 ミナミ
2453 ガナミア 「貴様たちは浄化には不要。目障りな邪魔者は消えてもいいよ。それも、あ
2454 と数バリュマーのイノチ。最後の祈りでも捧げるがいい」
2455 ジュリー 「ミナミさん。彼らの時間稼ぎに付きあつてはいけません」
2456 「わたししかいない：わたししかいないんだ：わたしが引かなきやだめなんだ。だつて、あの子たちは楽しみにしてるんだよ。お祭りが来るのを。来週も、来年の分
2457 も。ここでわたしが負けたら、全部、吹き飛んでしまうんだ。だから、だから、負け
2458 るわけにはいかないんだ。負けない。負けない。負けない。絶対に、負け

- 2460 ない。わたしが決めるしかないんだ…わかりました。引きますー」
- 2461 キタヤマ 「よし！ 腹決めろ！」
- 2462 コヅカ 「デモンフオールドの再起動までの時間はー」
- 2463 オペA 「四九〇秒です」
- 2464 ニシジマ 「二番手はテレポートできないようだが」
- 2465 ミナミ 「不死鳥なでやつてみます」
- 2466 キタヤマ 「その調子だ。行け！」
- 2467 ニシジマ 「無茶すぎる」
- 2468 ロイス 「心配は無用だ」
- 2469 ジュリー 「なぜです」
- 2470 ロイス 「今、わかる」
- 2471
- 2472 ロイスは不敵な笑いと共に、両手を勢いよく上げる
- 2473 ロイスが立川基地・上の屋外から急に姿を消して、有明に現れる
- 2474
- 2475 オペB 「ロイスのビーロン信号が基地の上から消えました」
- 2476 コヅカ 「なんだと？」
- 2477 オペB 「ビーロン確認。ロイスの居場所は…有明です！」
- 2478 ニシジマ 「いったいどうやつて？」
- 2479 ジュリー 「ロイス。あなたは何をしようというのですか？」
- 2480 ロイス 「まあ、見ていろ」
- 2481
- 2482 ○シーン7.8 有明戦場
- 2483 ミナミ 「ミナミはビッグサイトの屋上にいるロイスを見つける
- 2484 ロイスは、テレパシーでガナミアと会話しつつ左腕のコンソールで立川基地と話す
- 2485
- 2486 ミナミ 「キタヤマさん！ ビッグサイトの屋上にー」
- 2487 キタヤマ 「ロイスか？ なんでーーに？」
- 2488 ガナミア 「なに？ あやつは、もしや、トイズヴォル」
- 2489 ロイス 「フフッ。ブルハトウにまで名前を憶えてもらつては嬉しいねえ」
- 2490 ガナミア 「この世界にまで…。なるほど、このギガンドールは貴様の策略か」
- 2491 ニシジマ 「とんだ有名人つてわけか」
- 2492 ロイス 「ノエディーのチカラにはとても感謝しているよ。〃ナ〃、聞こえるか」
- 2493 ミナミ 「はい」
- 2494 ロイス 「最後の大きいなる力をキミに授ける。それでブルハトウを殲滅しろ」
- 2495 ガナミア 「殲滅だと？ ふざけるな」
- 2496 ロイス 「ニシジマ、不死鳥で球体を挟みこめ」
- 2497 ニシジマ 「キミの命令を訊くのはいささか忍びないが、ーーは仕方ない」
- 2498 先・マナカ 「動きをとめていた不死鳥が、銀色の球体をはさみこみに行きました」
- 2499 コヅカ 「だがデモンフオールドはまだ使えんぞ」
- 2500 ロイス 「あまりベラベラと話しかけるな。やつらに聞かれる」
- 2501 ニシジマ 「ならイヤホンを使えよ」
- 2502 ロイス 「そうだな」
- 2503 ガナミア 「ーーのコックピットを破壊できるチカラなど、あるわけがない」
- 2504 ロイス 「お前たちの思考は単純で助かるよ」
- 2505
- 2506 ○シーン7.9 ブルハトウ戦闘艇、浮上
- 2507 オペC 「房総半島沖、南五八キロに潮流の変化あり」
- 2508 オペB 「マリアナ海溝からの物体と思われます」
- 2509 コヅカ 「監視衛星の映像を拡大しろ」
- 2510 オペA 「海面に浮上します。物体の全長、四百五十メートル」
- 2511 ニシジマ 「この大きさで水中をあの速さで移動してきたつていうのか」
- 2512 オペC 「物体の飛行速度、マッハ六」
- 2513 先・マナカ 「あれはなんでしょうか？」 太陽光を反射しているのか、表面を輝かせた田盤がこちらに向かってきます。ものすごい速さです。もうわたしたちの目の前です。
- 2514

- 2515 大きい。巨大です。大観覧車の高さが一一五メートルですから、その二から四倍程度
 2516 しようか。どの位の高さに浮いているのか不明ですから更に大きいのかもしません」
 2517 ボグライ「お待たせしました。ガナミア様」
 2518 ガナミア「遅いぞボグライ」
 2519 ボグライ「すみません。多少、ダマスの調整を」
 2520 ガナミア「用意周到なのがお前の長所だ。しかし、時と場合による」
 2521 キタヤマ「ちよつとデカいぞ、二番手は」
 2522 ミナミ「二つの的には同時に狙えません」
 2523 ロイス「キミたちも少しは頭を使え」
 2524
 ○シーン80 立川基地
 2525 オペD「デモンフォールド再起動まであと三[百]秒」
 2526 オペC「円盤の接近と同時に、バルヴァアイド周辺のルーフケイズ結界の密度が毎秒二[五
 2527 ルーストで低下しています」
 2528 ニシジマ「あいつも巨人同様にRF技術を使ってるんだ。驚く[リ]んじゃない。いや、なる
 2529 ほど。そういうことか」
 2530 コヅカ「名案か?」
 2531 ニシジマ「いいですか。ルソン島のとき、巨人は核ミサイルでもビクともしなかった。球
 2532 体は絶対零度の影響を受けない。あの巨大な円盤を水中で高速で動かせる。全部、バ
 2533 リアの効力です。たぶん、異次元から侵入して来れるのもその技術のおかげ。しかも、バ
 2534 わたしたちと同じRF技術を使っている。その結果作り出されるのが、やつらの言っ
 2535 ている『ダマス』だ。なら、エネルギーの供給を断てばいい」
 2536 ジュリー「空間中からルーフケイズ結界をゼロにするには、余程の逆反射エネルギーがな
 2537 いと不可能です」
 2538 ニシジマ「だから、円盤が来るまで待つんだろ。ロイス」
 2539 ロイス「役者は揃った。はじめるとしよう」
 2540 ニシジマ「円盤の存在も隠していたのは、あとで弁解してもいいけどね」
 2541
 2542 ロイス、両腕をあげ大声で呪文を唱えはじめる。呪文一発抜きで行きましょう！
 2543
 2544 ロイス「ここにしえの故郷《ノキヨウ》に帰りし御靈《ミタマ》よ。わが心の中に宿り護
 2545 ロイス「《まも》れよ」
 2546 キタヤマ「おまじないをはじめたのか？」
 2547 ロイス「血塗られたサダメでも安らぎを求めてくると知れ。おお、満天の星々よ。嗚呼、
 2548 深い海の底へ。彼の地に降り立つその姿。響きわるよう[リ]に力を尽くせ」
 2549 オペC「有明上空に磁気嵐発生」
 2550
 2551
 2552 立川基地のモニター消える。首都圏の電子機器が一斉ダウン。ブルハトウの通信も途絶
 2553
 2554 コヅカ「何が起きた！」
 2555 オペB「通信回線、すべて遮断されました」
 2556 ジュリー「ロイスがやっていることなのですか？」
 2557 ニシジマ「あいつの隠し事は底なしだね」
 2558 ロイス「たとえ首を刎《は》ねられようとも。遙かなる永遠の夢の世界。気高き勇者の
 2559 刻印を」
 2560 先・マナカ「急に空が黒く厚い雲に覆われました。同時にエデンが全身から光を放つてい
 2561 ます！一体、何が起ころうと一つて、ちよつと。なんでモニター映らないの？も
 2562 しかし、こっちの音も行ってないの!?」この重大な状況を中継できないなんて」
 2563 ミナミ「キタヤマさん。わたし、こわい」
 2564 キタヤマ「心配するなって言つてるだろ」
 2565 ロイス「雷鳴が襲いかかろうとも受け止め、弾き返し、反対にその威光を得よ。さあ、
 2566 アドレマインズよ。今、我に授《さず》けたまえ。そなたの元に帰りし御靈のチカラを」
 2567 ガナミア「ギガンドールが輝きだした。ボグライ。状況を説明しろ。ボグライ！」
 2568 ボグライ「ガナミア様。ガナミア様！なんだ、この波動は。もしや。だが、ギガンドー
 2569 ルが動きを見せぬ間に」

- 2570 キタヤマ 「円盤から触手が出てきた！」 球体を回収するつもりか。『ナマ』
- 2571 ミナミ 「的が一つになるなら、そっちの方が」
- 2572 キタヤマ 「いいね。やる気満々だな。でも、立川と通信できない。どうする」
- 2573 ロイス 「ミナミ、キタヤマ、聴こえるな」
- 2574 キタヤマ 「ロイス！ あんたとは話できるんだな」
- 2575 ロイス 「自分が不都合になるようなことはしない」
- 2576 ミナミ 「わたしにあの円盤を撃ち落とすことなんてやれるんでしようか」
- 2577 ロイス 「そのためのバルヴァアイドだ」
- 2578 ○シーン8-1 ブルハトウ攻撃艇
- 2579 自動ドアが開き指揮室に戻つてくるガナミア、それを追ひいくボグライ
- 2580 2581 ボグライ 「お待ちください、ガナミア様」
- 2582 ガナミア 「我慢の限界だ。後続部隊など待つてはおれん」
- 2583 ボグライ 「ですが、浄化の手順を誤りますれば」
- 2584 ガナミア 「アドレマイズの手で汚れた世界など、次元の根いれを消え失《う》せればい
- 2585 ガナミア 「アドレマイズの手で汚れた世界など、次元の根いれを消え失《う》せればい
- 2586 ガナミア 「アドレマイズの手で汚れた世界など、次元の根いれを消え失《う》せればい」
- 2587 ボグライ 「いかし…」
- 2588 ボグライ 「やかましい。次元破碎砲《じげんはやくほう》の準備をしの」
- 2589 ボグライ 「かし」されました」
- 2590 ○シーン8-2 バルヴァアイド、巨大化
- 2591 2592 バルヴァアイドが巨大化していく
- 2593 マナカは中継できていないかもしれないマイクに向かって上空の模様を実況する
- 2594 ミナミ 「へわあ…だんだん大きくなつてく！」
- 2595 キタヤマ 「デモンコアのチカラにしたつて、なんでもりなんだな」
- 2596 ロイス 「ここまで来るのでに苦労したよ。バルヴァアイドの大きさを十倍に拡大した。ル
- 2597 フケイズエンジンの出力は五十倍以上。デモンアローの矢に不死鳥を乗せて撃て。そ
- 2598 れでブルハトウの円盤を撃墜できる」
- 2599 先・マナカ「みなさん、聞こえていますでしようか！ ハデンが巨大化しました。円盤に
- 2600 対抗するためと思われます！」
- 2601 2602 ガナミア「ギガンドールが巨大化しただと？」しかし、所詮は木偶《やぐ》人形にすれん。
- 2603 2604 まず手始めに、こいつをお見舞いしてやる！」
- 2605 マナカ「エデンが三角錐を光の弓の先に取り付けました。これで円盤を撃ち落とそうとい
- 2606 キタヤマ「円盤のハッチが開いた！」仕掛けてくるつもりだぞ。『ナマ』、急げ！」
- 2607 ミナミ 「足踏《あしふ》み…胴造《どうづく》り…弓構《ゆがま》え…」
- 2608 ボグライ 「準備完了しました」
- 2609 ガナミア「よし。この世の終わりの始まりを見るがよい。人間ども…」
- 2610 2611 円盤のハッチにエネルギーが走り、粒子が充填されていく
- 2612 円盤を構えるバルヴァアイド
- 2613 キタヤマ 「撃て！ 『ナミ』」
- 2614 ミナミ 「打越し《うちお》引分《ひきわ》け…会《かい》」
- 2615 キタヤマ 「早く！」
- 2616 ミナミ 「離《はな》れ！」
- 2617 2618 ガナミア「今度は真つ直ぐだ！」
- 2619 キタヤマ「先・マナカ『エデンが円盤に向かって光の矢を放ちました！ 円盤からは強力な光線が発射され、両者の中間でぶつかり合い、激しく輝いています！』
- 2620 光の矢が放たれる
- 2621 ○シーン8-3 円盤消失
- 2622 ガナミア「『ナミ』かしい！」
- 2623 キタヤマ「先・マナカ『エデンが円盤に向かって光の矢を放ちました！ 円盤からは強力な光線が発射され、両者の中間でぶつかり合い、激しく輝いています！』

2627 ミナミ 「残心《せんしん》》」
2628 「(ヒ)からが見せ場だ」
2629 ロイス 先・マナカ「エデンから放たれた光の矢が田盤からの光線を押しています！ 明らかに光の矢の方が強力です！」
2630 ボグライ「ガナミア様！ これは…」
2631 ガナミア「まさか、(ヒ)の次元で、あの武器を使えるというのか…」
2632 キタヤマ「よし！ もう一声《ひといゝべ》！」
2633 ミナミ 「(ヒ)めんなさい！」
2634 ロイス 「最高のタイミングだ」
2635 光の矢が田盤に到達する
2636
2637
2638 ガナミア「そんな…バカな…」
2639 ロイス 「ブルハトウの次元破碎砲《じげんはさくばう》」の威力を利用して、不死鳥によ
2640 ルーフケイズ界を一瞬で
2641 完全に消去する。それが本当のデモンアロー」
2642
2643 爆発する田盤
2644
2645 キタヤマ「ブルハトウの田盤が、消えた…」
2646 ミナミ 「テレポートですか!?」
2647 ロイス 「いや、違う。原子レベルで塵になつたのや」
2648 キタヤマ「勝つたんだよ。オレたちは勝つたんだ」
2649 ロイス 「おめでとう。しかし、そう喜んでもいられないぞ」
2650 ミナミ 「え！ …キタヤマさん、足が…」
2651
2652 ○シーン84 Hデン、下半身消失
2653 バルヴァайдの下半身、腕が消えていく
2654
2655 先・マナカ「田盤が消滅しました。あつという間に！ ですが、様子が変です。エデンの
2656 大きさが元に戻りながら、両足の先から消えていきます」
2657 キタヤマ「足だけじゃない、両が無くなつた」
2658 ミナミ 「足だけじゃない、両が無くなつた」
2659 ミナミ 「足だけじゃない、両が無くなつた」
2660 キタヤマ「なんてこつた」
2661 ロイス 「デモンコアが無事ならそれでいい」
2662 キタヤマ「なんだつて？」
2663 ロイス 「案ずるな。上半身は残る」
2664 ミナミ 「じゃあキタヤマさんは!?」
2665 ロイス 「消える」
2666 キタヤマ「マジかよ」
2667 ロイス 「ブルハトウと同じように。仕方ない。それがデモンアローを撃つた代償だ」
2668 ミナミ 「そんな…」
2669 ロイス 「地球の危機を救つたんだ。それくらいの犠牲は安いもんだら」
2670 キタヤマ 「キタヤマさん逃げて！ 操縦席から脱出してください！」
2671 ロイス 「わかつてゐよ！ でも、イジュクション・ショルが作動しない」
2672 「残念だが、タイムアウトだ」
2673 キタヤマ「うわ！ また消えるのか…」
2674 消えるバルヴァайд下半身、残つたのは上半身のみ
2675
2676 ミナミ 「キタヤマやーーーーーん！」
2677 先・マナカ「Hデンが上半身だけになつてしまふました。ゆっくりと降卜してもおらず。(ヒ)
2678 のままだと防災公園に着地します。わたしたちも移動します」
2679
2680 中継車、発進する

- 2737 ミナミ 「許さない…」
2738 オペD 「バルヴァイド周辺のルーフケイズ結界濃度が急上昇しています」
2739 ジュリー 「ミナミさん！」
2740 ミナミ 「絶対に、許さない…」
2741 ロイス 「しかし、もう動けまい。努力賞のメダルでも作って置けばよかつたかな」
2742 ミナミ 「わたしはなんて言われてもいい。でも、こんなに頑張ってるみんなを、ズシと
2743 騙してきたなんて、わたしは許さない」
2744 オペD 「バルヴァイド、エンジン出力上昇…そんな…オーバーフロー。計測不能です！」
2745 ロイス 「いいぞ。現状のデモンコアにミナミの怒りが加われば、さらに威力は増大し、
2746 わたしの望みが適いやくななる」
2747 ニシジマ 「くそお、天才ニシジマにも打開策が見いだせない…」
2748 ミナミ 「だつたら…だつたら…」
2749 ミナミ、バルヴァイドの胸部装甲を引きはがす
2750 ミナミ
2751 ミナミ 「ええ―――――ツ！」
2752 オペD 「バルヴァイドの胸部装甲が剥がされました」
2753 オペA 「デモンコア、露出」
2754 オペC 「バルヴァイド結界濃度、不安定になつています」
2755 バルヴァイドの胸部装甲が開き、デモンコアが直接現れる
2756 オペA 「バルヴァイド結界濃度、不安定になつています」
2757 オペD 「バルヴァイドの胸部装甲が剥がされました」
2758 ロイス 「馬鹿者！ 何をする！ デモンコアを破壊したら誘爆してお前も死んでしまう
2759 ロイス 「何をしようというのだ」
2760 ロイス 「ぞ！」
2761 先・マナカ 「中継つながつた？ みなさん」覽になれますでしようか。Hデンは円盤との
2762 戰闘後、損傷し、上半身のみとなり、いま、自分の胸の装甲を自ら引きはがしました。
2763 ハツチの中からは閃光が漏れています。あれがデモンコアの光なのでしようか！」
2764 ハツチの中からは閃光が漏れています。あれがデモンコアの光なのでしようか！」
2765 ニシジマ 「ミナミくん、聞こえるか！ 今、デモンコアを制御しているのは君なんだ。そ
2766 の君がいなくなつたら、その破壊力は…、破壊力は…、うーん計算できん！ ともか
2767 くタダじやすまい！」
2768 ミナミ 「デモンコアがある以上、わたしはもうじきにも逃げられない。な…」
2769 ジュリー 「ミナミさんまで命を落とす必要はないのよ」
2770 ミナミ 「ジュリエットさん、ニシジマさん、ロジカさん、基地の皆さん。短い間でした
2771 けど、お世話になりました」
2772 ロジカ 「ミナミくん…」
2773 ミナミ 「パパ、ママ、お姉ちゃん。今まで本当にありがとうございました。そしてキタヤマさん。迷
2774 惑ばつかりかけて本当にゴメンなさい」
2775 ロイス 「やめろ！ せつかく積み上げてきたわたしの苦労を」
2776 ○シーン87 キタヤマ再登場
2777 キタヤマからの着信、マナーモードのミナミが気が付く
2778 キタヤマは南鳥島近海で浮いている
2780
2781 ミナミ 「え？ そんな…、もしもし…」
2782 キタヤマ 「すぐ出たつて」とは、まだ頑張つてゐるヒルムか
2783 ミナミ 「キタヤマさん！」
2784 ニシジマ 「まさか！ キタヤマくん、生きていたのか？」
2785 キタヤマ 「何回も殺さんでくださいよ」
2786 ミナミ 「どこにいるんですか！」
2787 キタヤマ 「G P Sつて役立つよなあ。緯度と経度を教えてくれて。でも周りになんにも
2788 なくて場所なんてわからやしない」
2789 オペB 「ダイバーBの位置特定。端末からの映像キャッチしました。現在地は南鳥島の
2790 西11〇キロの海上です」
2791 コヅカ 「三日前と逆だというのか。硫黄島のメンテナンス・タンカー出動！」
2792 キタヤマ 「ロイス。あんた言つたよな。おれたちのヒルム、とんだ救世主だつてや。まあ、

- 2793 ちよつと天然だが、ミナミは本当の救世主だつて知らなかつたのかい？」
- 2794 ロイス 「それはどうかな」
- 2795 キタヤマ 「ミナミ、よく聞け。お前のそのひたむきで優しいヒトに、オレは惚れた。高
- 2796 校を卒業したら結婚してくれ」
- 2797 ミナミ 「え？」
- 2798 ニシジマ 「ハ」でプロポーズするか、普通！」
- 2799 キタヤマ 「本部長、すみません。オレ、本部長よりミナミの方が好きみたいですね」
- 2800 ジュリー 「わかりました」
- 2801 ミナミ 「そんな場合ではないぞ」
- 2802 コヅカ 「だから絶対に死ぬな。お前はオレの嫁だ！」
- 2803 ミナミ 「でも、わたしどうすれば」
- 2804 ロイス 「簡単な話だ。わたしにデモンコアを渡せばいい。もちろん、安定した状態で」
- 2805 ミナミ 「それは出来ません！ こんな危険なデモンコアなんて無い方がいいんです」
- 2806 ロイス 「危険？ 夢を叶える魔法のクリスタルが危険だと？ もつとも、これから不安
- 2807 定な状態で維持することを考えれば、キミたちにとつては危険かも知れないな」
- 2808 ミナミ 「キタヤマさん、ごめんなさい。キタヤマさんの気持ちは嬉しいけれど、やつぱり、わたし」
- 2809 オペD 「バルヴァイドの機体がデモンコアの発生させた熱量に耐え切れません」
- 2810 ニシジマ 「やばい！ このまま加熱が進むと…」ミナミくん、すぐに機体から降りるんだ」
- 2811 ロイス 「計算が狂つたか。もう少し装甲の耐熱設計を上げるよう言つておくんだつたな。だが、それも良し。バルヴァイドがデモンコアの熱を吸収してくれる。わたしはそれを頂くまで」
- 2812 ミナミ 「そんなこと、させない」
- 2813 2814 2815 2816 2817 2818 2819 2820 2821 2822 2823 2824 2825 2826 2827 2828 2829 2830 2831 2832 2833 2834 2835 2836 2837 2838 2839 2840 2841 2842 2843 2844 2845 2846 2847 2848
- シーン88 バルヴァイド、大気圏外へ
中継するマナカ
- 先・マナカ「エデンの胸部に搭載されたデモンコアの輝きが増しています。赤外線カメラによると最も熱量の高い部分の温度は千二百度。あ、エデンの翼が開かれました。上半身だけで飛ぼうというのでしょうか」
- ロイス 「悪あがきはよせ。もう少し装甲の耐熱設計を上げるよう言つておくんだつたな。だが、それも良し。バルヴァイドがデモンコアの熱を吸収してくれる。わたしはそれを頂くまで」
- ミナミ 「わたし、あきらめたくない」
- ミナミ 「そんなこと、させない」
- ミナミ 「バルヴァイドは翼の疑似デモンコアをボロボロと崩れ落ちさせながらも飛ぶ
- 先・マナカ「エデンが急上昇をはじめました。何をしようといふのでしようか。あまりの高温のためパイロットの安否が心配です」
- キタヤマ「馬鹿野郎！ ミナミ！ そんなにオレが嫌いなら、上から降つてきてや取け止めやられねーからな！」
- ニシジマ「コックピット・シールがもてばいいが」
- キタヤマ「縁起でもないこと言わないでくださいよお」
- ジュリー「ミナミさんの救助体制を敷きましょう。横須賀に連絡します」
- ニシジマはコーヒーを入れたマグカップとスナック菓子の袋を持ってくる
- ニシジマ、コーヒーをこくりと飲みスナックを食べる

2849 ジュリー「ノルハ、いつとかくかい食べるのをやめられないんですか?」
2850

2851 ジュリエットはニシジマからスナックを取り上げる

2853 リンガマ「やめとお。やめとがだれこむ」

2855 ニシジマの麦茶がジユリエツトのスープに

2859 2858
「二の二事ニ可シム。二着は免ハジニラジ是ハ
ニ支障が出来ますよ」

2862

2864 ハハハ「わわわん。本部長がスーツのシワを気にすね〜」にはね…って、ちよつと待

2866 ジュリー「安物です。氣にしなひでござりハ
本部長、そのナーツ！」

2868 2001.11.11 バーバラ・ヒルシナのヌーンのタグを配しておいた。

Louis Vuitton= ドイツ・ヴァイシントンである、ルイ・

「バルヴァアイドの第一宇宙速度到達まで、あと三十秒」

2873

2010年
2879
ユヅカ
ナ・A
「一万五千メートル
バルヴアイドの高度は?」

「シジマ「ミナミくん、早く脱出するんだ」

2882 6666

2884

2886
か複数指写されてしまふ

通信途絶 フラッシュアウトです】
「ジャクナより入電。バレヴァアイが
オヘ A D

ルヴァイドは第二宇宙速度に到達し地球の重力圏を離脱後に爆発。微弱なルーフケイド三波。ダメージ一回一回も出しません。これで易い月面直行が可能になります。

2891
9999
イジエクショーン・シエルの大気圏再突入速度は秒速六・九キロ。落下予想地点は…ち

「ハハハ 「あとはミナミくんの強運に賭けるしかない」

2895 ○シーン91 ロイス、逮捕

ビッグサイト屋上でハルヴァイトを見上げたロイド
その後ろから近づく警官様。それに感づいて、「あロイド

「振り向くな。警視庁だ。両手を上に。お前は複数の狙撃班のターゲットだ。」

2902 ロイス 「手回しが良いな」

2904

- シーン92 ロイス、護送車
護送車に乗せられ、ソファに座るロイス。手錠と足かせの拘束具を付けられている
モニター越しではあるが怒りを通り越してあきれた風なジユリエット
哀れみのかれもないニシジマ
- 2905
2906
2907
2908
2909
2910
2911
2912
2913
2914
2915
2916
2917
2918
2919
2920
2921
2922
2923
2924
2925
2926
2927
2928
2929
2930
2931
2932
2933
2934
2935
2936
2937
2938
2939
2940
2941
2942
2943
2944
2945
2946
2947
2948
2949
2950
2951
2952
2953
2954
2955
2956
2957
2958
2959
2960
- ジユリー 「気分はいかが? ペテン師さん」
ロイス 「この手錠と足かせを外してくれれば愛想笑いもできるだらうな」
ニシジマ 「お前の笑顔をみても全然元気でないよ」
ロイス 「こんな貧相なつくりの車でわたしを運んでもいいのかな」
ニシジマ 「なら見せてみろよ。瞬間移動をさ」
ロイス 「勘づいたか」
ニシジマ 「簡単なトリックさ。指令室を出ですぐに第四格納庫に向かつたお前は、事前に
細工してあつたステルスヘリで基地を飛び立つた。ビーコンだけは基地の上に置いて
ね。有明に着いたあと頃合いを見計らひてビーコンの発信源を切り替える。そのくわ
いボクにだつて出来る」
ロイス 「なぜわかった」
ニシジマ 「本部長のスースのタグをみてハツとしたよ。ロイス・ヴァイツトン。インチキ
野郎にしては、なかなかユーモアのセンスがあるつてね」
ロイス 「わたしの助言で地球が守られたというのにこのザマか」
ジユリー 「その辺は、これからジックリ伺います」
○シーン93 ミナミたち救出・エンディング
お台場で中継を続行中のマナカ
2927
2928
2929
2930
2931
2932
2933
2934
2935
2936
2937
2938
2939
2940
2941
2942
2943
2944
2945
2946
2947
2948
2949
2950
2951
2952
2953
2954
2955
2956
2957
2958
2959
2960
- 先・マナカ 「エデンが大気圏外で爆発したとの情報が入つてきました。パイロットは無事
なのでしょうか」
マナカの携帯に非通知の着信、マナーモードで
先・マナカ 「非通知?」
ホンマ 「おい、本番中だぞ!」
先・マナカ 「でも… はい。マナカです!」
ミナミ 「マナカさん…」
先・マナカ 「(小声になん) ミナミさん? じいさいは…」
ミナミ 「もう大丈夫です。わたしたち、勝ちました」
先・マナカ 「そう。そうなんだ。ありがとうございます。…みなさん、重大な
ユースです! わたしたちの危機は回避されました! わたしたちは、勇敢な人々の
行動によつて、護られたのです!」
漂流するキタヤマとミナミはバルヴァイドの下半身のペースの欠片につかまつて浮かん
でいる
キタヤマ 「じうだミナミ。惚れ直したろ?」
ミナミ 「綺麗な夕陽…」
近づいて来る救助ヘリ
救助隊 「S-39 (シーハー、ジユリー・ナイナー)。E-1 (エロー・ワン)。タリ
ホー・ツー (Tallyho/田標) 一つを視認した)。バイタルサイン・コレイション (照合)
。ダイバーA アンド B、リコグニション (認識)。コンディション・グリーン。ペー
ツが散乱しているが問題ない。これより状況開始する。ぐりかえす」
4番主題歌 EDフルサイズ・ドラマベージョンをフューノードイン
○シーン94 キャスト紹介
以降、ナレーションで。収録時はシーンの2も一緒に収録

2961	出演	ミナミ、はなさき・みなみ (花咲実奈美)
2962		キタヤマ、てんのうじ・さきよう (天王寺★左京)
2963		ニシジマ、ちやお・ささき (チャオ・ササキ)
2964		ジユリエット、あきづき・みさき (秋月深咲)
2965		コヅカ、まるふじ・けんた (丸藤賢太)
2966		ソラ、ひの・れい (緋乃玲)
2967		マナカ、しゃおりん (小鈴)
2968		ロイス、なぎ・かいじ (嵐佳二)
2969		ガナミア、すぎみや・かな (杉宮加奈)
2970		ボグライ、ひの・れい (緋乃玲)
2971		ワセダ、おおぬま・しゅん (大沼竣)
2972		オウジ、あゆかわ・もえ (歩川もえ)
2973		アオサワ、しらい・ひでゆき (白井秀行)
2974		ノリマサ、たかまひろゆき (高天宏之)
2975		イサクラ、さくらい・きょうこ (櫻井興子)
2976		JR大宮駅員、ねこ (音虎)
2977		青年、おんげき・ぽいすあーむず (音劇ボイスアームズ)
2978		ナレーシヨン、おおぬま・しゅん (大沼竣)
2979		2980
2981	○シーン95 ハーデン家・アパート前	2981
2982	アパート前に停まる黒塗りのベンツ	2982
2983	そこから降りるミナミがドアを閉めると、開く窓	2983
2984	ミナミは車に向かって話しかける	2984
2985		2985
2986	ミナミ 「お世話になりました」	2986
2987	ジユリー 「お礼を言わなければいけないのはこちらの方です」	2987
2988	コヅカ 「申し訳ないが、君の活躍は誰にも知られるわけにはいかないのだ。身辺警護の	2988
2989	者が張り付いては気が休まらんだろうが、そこは我慢してくれ。ミナミくんの安	2989
2990	全を守るのが我々の責務だ。説明の通り、堕落しない程度には毎月口座に一定額が振	2990
2991	り込まれ続けるだろう。そのための国防機密費だ」	2991
2992	ニシジマ 「無駄遣いしちやダメだぞお！」	2992
2993	ミナミ 「しませんよ」	2993
2994	ジユリー 「キタヤマくんに、なにか伝言はある？」	2994
2995	ミナミ 「そうですね。美味しいパンを食べたいときは電話してくたやつて」	2995
2996	ジユリー 「わかりました」	2996
2997	コヅカ 「よし。出せ」	2997
2998		2998
2999	走り出すベンツ。ミナミは深々と頭を下げて見送る	2999
3000		3000
3001	ミナミ 「ありがとうございました」	3001
3002		3002
3003	ミナミ、エデン家のドアベルを鳴らす	3003
3004	中からソラが走ってくる音が聴こえる	3004
3005	ドア、勢いよく開く	3005
3006		3006
3007	ソラ 「ミナミ！」	3007
3008	ミナミ 「ただいま。お姉ちゃん」	3008
3009	ソラ 「あんた大丈夫なの？」 ウィルスとか？」	3009
3010	ミナミ 「うん。もう平気みたい。とりあえず夕飯つくるね」	3010
3011		3011
3012	猫がなく	3012
3013		3013
3014	ミナミ 「よしよし。コウちやんもお腹空いたでしょ」	3014
3015		3015
3016	閉まるドア	3016

- 3017 ○シーン96 スタッフロール
 企画・原案、あーる・えむ・あーる (RMR)
 3019 脚本、すがや・ようせい (菅谷陽星)
 3020 音楽、もりた・しゅんすけ (森田俊輔)
 3021 せんていぶ (SENTIVE)
 3022 こーのす・まー (鶴巣舞)
 3023 S F考証、おくなう・むひり (奥菜宇素子)
 3024 U M A (ゆーま) 監修、くわくわ・きよーりゅー (倉持キヨーリュー)
 3025 地域情報監修、てふす (TEPS)
 3026 リハーサル、品川区大崎第一地域センター (えのまが)
 3027 録音、スタジオ「りゅうのじゅうく」 (竜の洞窟)
 3028 録音エンジニア、* * * * * (* * * * *)
 3029 キャスティング協力、てふす (TEPS)
 3030 ぱいす・とれじやー・ふあくふうりー (Voice Treasure Factory)
 3031 おんげき・ぱいすあーむず (音劇ボイスアーミズ)
 3032 デザインワークス、こーのす・まー (神戸牛)
 3033 キャラクター・デザイン、まーと (mart)
 3034 タイトルロゴ、あんよくん (あんよくん)
 3035 イラスト、こーのす (神戸牛)
 3036 作監修正、まりあんぬ (マリアンヌ)
 3037 編集・監督、ふるいけ・おやとい (古池真透)
 3038 制作、ややいくしー・えーじえんと・わーびす (GAS)
 3039 3040 3041 3042 3043
 以上で、わよっわくこ・がるばこえでん・だいばーを、終わります]

○END

決定稿

